

工事費執行(変更)概要書		教育長	教育部長	次長	課長	課長補佐	課員	審査員	設計者
執行年度 29 年度	工事名	H29 国府中学校 特別教室棟 屋上防水改修工事							
	工事場所	石岡市総社二丁目12番1号							
設計(変更)概要		施工方法	請負・ 委託						
H29 国府中学校 特別教室棟 屋上防水改修工事		原契約年月日	平成 年 月 日						
1 準備・撤去工事		工 期	平成 29 年 月 日から						
既存断熱アスファルト防水撤去 860 m ²			平成 30 年 2 月 28 日まで 日間						
2 防水改修工事		請 負 人							
塗膜断熱防水改修(平面) 779 m ²									
塗膜防水改修(立ち上り) 81 m ²									
塗膜防水改修(笠木) 36 m ²									
		費 目	起 工	第 回変更	第 回変更	増 減 (△)			
		起 工 額	円	円	円	円			
		請負に付する額	円	円	円	円			
		工 事 価 格	円	円	円	円			
		消費税 相当額	円	円	円	円			
		請 負 決 定 額	円	円	円	円			
変更理由		<p>変更工事価格算定基準: 変更工事価格 = 変更積算工事価格 × $\frac{\text{起工時の請負決定額}}{\text{起工時の委託に付する額}}$ <small>(少数第7位切り捨て6位止め)</small></p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 変更積算工事価格 円 </div> × <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 請負比率 </div> = <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 変更積算工事価格 円 </div> </div>							

特 記 仕 様 書 (改修工事)

I 工 事 概 要

1. 工事名 H29 国府中学校 特別教室棟 屋上防水改修工事
2. 工事場所 石岡市総社二丁目 12 番 1 号 地内
3. 敷地面積 33,024 m²
4. 建設工事その他概要 (建物名称、構造、階数、建築面積、延べ面積、等)

(1) 工事範囲 ※図示

屋上防水改修面積 平面 779 m² , 立ち上がり 81 m²

(2) 建物概要

(全体)

建物名称	特別教室棟号館					
構 造	RC造		一部		造	
階 数	地上 3階	地下 階	地上 階	地下 階		
建築面積	m ²			m ²		
延べ面積	1,997 m ²			m ²		

5. 工事条件

- ・ 工事は学校の都合により平日に施工できないことがある。
- ・ 工事中は児童、教職員、来校する保護者等に危険をおよぼさないよう、安全に十分配慮すること。
- ・ 学校周辺は道路が狭いため、機材の搬出入等には交通に注意し、必要により、車両誘導員等を配置すること。
- ・ 屋根改修中に悪天候が予想される時は、漏水対策を行うこと。これを怠って、建物に損害を与えた場合は、請負者の責任において補修、復旧すること。

(H12. 04. 01 作成)

(H17. 05. 15 改訂)

(H25. 05. 15 改訂)

(H13. 10. 01 改訂)

(H17. 10. 01 改訂)

(H14. 05. 30 改訂)

(H18. 05. 15 改訂)

(H15. 06. 01 改訂)

(H19. 07. 01 改訂)

(H15. 09. 01 改訂)

(H23. 06. 01 改訂)

(H16. 05. 15 改訂)

(H24. 06. 01 改訂)

Ⅱ 建築改修工事仕様

1. 共通事項

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成22年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）により、改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成22年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。

2. 特記事項

- (1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。
- (2) 特記事項で※印、◎印、・印のある場合の適用は、下記による。
 - ◎印の付いたものを適用する。
 - ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
 - ◎印と☒印の付いた場合は、共に適用する。
 - ・印の付いたものは適用しない。
- (3) 特記事項に記載の [] 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該表又は当該図を示す。
- (4) 特記事項に記載の () 内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表又は当該図を示す。
- (5) 製造所は、五十音順とし、「株式会社」等の記載は省略する。
- (6) 改修電気設備工事、改修機械設備工事は、別記各工事の標準仕様書による。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	1 適用基準等	建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部制定 平成22年版） 工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）
	2 官公署その他への届出手続等	(1.1.3) 受注者は完了検査（中間検査を含む）時には、特定行政庁（建築主事等）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。
	3 工事实績情報の登録	適用する（付記事項の2を参照） (1.1.4)
	4 品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 (1.2.2) 風速（V0） ・ 30 ・ 32 ・ 34 ・ 36 地表面粗度区分 ・ I ・ II ・ III ・ IV
	5 電気保安技術者	適用する (1.3.3)
	6 材料の品質等	建築材料等 (1.4.2) 本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質および性能と同等以上のものを使用する。ただし、製造業者等が記載されている場合に同等以上のものとする場合はあらかじめ監督員の承諾を受ける。 材料・機材等の製造業者は次の(1)から(6)すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督員の承諾を受ける。 (1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3) 安定的な供給が可能であること (4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること 「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたりリサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）により、県が定める「特定調達品目」について環境負荷を低減できる材料を選定するよう努めるものとする。 上記の条件を満たすものが県産材で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。なお、県産材とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。
	7 リサイクルの優先順位	(1)発生抑制の徹底 (2)再使用の徹底 (3)再資源化の徹底 (4)適正処分の徹底 (再資源化に係る作成書類は、付記事項の5を参照)
	8 発生材の処理等	・発注者に引渡しを要するもの ◎なし ・あり 処理方法（ ） ・特別管理産業廃棄物 ◎なし ・あり 処理方法（ ） ・現場での再利用を図るもの ◎なし ・あり 品目（ ）
	9 下請人通知	建設工事請負契約書及び茨城県建設工事適正化指針に基づく下請人通知書を、県と請負契約を締結した日から原則として30日以内、その後の下請け契約に係るものは、契約締結の日から10日以内に提出するものとする。
	10 特別な材料の工法	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

章	項 目	特 記 事 項																									
1 一般共通事項	11 環境への配慮	<p>化学物質を拡散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1) から4) を満たすものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセドアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 2) 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 3) 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 4) 1) の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。 <p>また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。</p> <p>規制対象外</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発生建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 <p>第3種</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発生建築材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 																									
	12 化学物質の濃度測定	<p>室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン（学校施設については、パラジクロロベンゼンについても対象とする。）の濃度を測定し、報告すること。</p> <p>測定は、厚生労働省が室内空気中化学物質の濃度を測定するための標準的方法として示した、ホルムアルデヒドについては、ジニトロフェニルヒドラジン（DNPH）誘導体化固相吸着／溶媒抽出－高速液体クロマトグラフ法により、その他については、固相吸着／溶媒抽出－ガスクロマトグラフ／質量分析法により行い、パッシブサンプラー型採取方法にて採取すること。</p> <p>測定対象箇所は、平成15年4月1日通知「官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」に準じ、下表の数を標準とする。（指針値は、付記事項の6を参照）</p> <table border="1" data-bbox="529 1630 1471 1704"> <thead> <tr> <th>室の床面積 A (㎡)</th> <th>A ≤ 50</th> <th>50 < A ≤ 200</th> <th>200 < A ≤ 500</th> <th>500 < A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定箇所数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">室内空気中の化学物質の濃度測定室箇所表</p> <table border="1" data-bbox="611 1771 1414 1953"> <thead> <tr> <th>室名（測定対象室）</th> <th>床面積</th> <th>測定箇所数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	室の床面積 A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A	測定箇所数	1	2	3	4	室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数												
室の床面積 A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A																							
測定箇所数	1	2	3	4																							
室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数																									

章	項目	特記事項																				
1 一般共通事項	13 施工数量調査	調査範囲及び調査方法 ※ 図示 ・(4)1項による [1.5.2] 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※ 図示 [1.5.3] 報告書 ・2部 (※報告書 ・CADデータ)																				
	14 技能士	(1.6.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用工事種別</th> <th>技能検定作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防水改修工事</td> <td>・アスファルト防水工事作業 ◎ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塩化ビニルシート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング 防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP 防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>外壁改修工事</td> <td>・左官作業 ・タイル張り作業 ・建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>建具改修工事</td> <td>・ビル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業</td> </tr> <tr> <td>内装改修工事</td> <td>・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード 仕上げ工事作業 ・鋼製下地工事作業 ・壁装作業 ・大工工事作業 ・タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>塗装改修工事</td> <td>・建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>耐震改修工事</td> <td>・鉄筋組立作業 ・型枠工事作業 ・とび作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリートブロック ・ALCパネ工事</td> <td>・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルパネ工事作業</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>・石張り作業</td> </tr> <tr> <td>植栽工事</td> <td>・造園工事作業</td> </tr> </tbody> </table>	適用工事種別	技能検定作業	防水改修工事	・アスファルト防水工事作業 ◎ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塩化ビニルシート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング 防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP 防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業	外壁改修工事	・左官作業 ・タイル張り作業 ・建築塗装作業	建具改修工事	・ビル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業	内装改修工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード 仕上げ工事作業 ・鋼製下地工事作業 ・壁装作業 ・大工工事作業 ・タイル張り作業	塗装改修工事	・建築塗装作業	耐震改修工事	・鉄筋組立作業 ・型枠工事作業 ・とび作業	コンクリートブロック ・ALCパネ工事	・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルパネ工事作業	石工事	・石張り作業	植栽工事	・造園工事作業
	適用工事種別	技能検定作業																				
	防水改修工事	・アスファルト防水工事作業 ◎ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塩化ビニルシート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング 防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP 防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業																				
	外壁改修工事	・左官作業 ・タイル張り作業 ・建築塗装作業																				
	建具改修工事	・ビル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業																				
	内装改修工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード 仕上げ工事作業 ・鋼製下地工事作業 ・壁装作業 ・大工工事作業 ・タイル張り作業																				
	塗装改修工事	・建築塗装作業																				
	耐震改修工事	・鉄筋組立作業 ・型枠工事作業 ・とび作業																				
	コンクリートブロック ・ALCパネ工事	・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルパネ工事作業																				
石工事	・石張り作業																					
植栽工事	・造園工事作業																					
15 施工図等の取扱	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。																					
16 既存部分との取合い	工事中に取合部その他本工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は、原型に復する。																					
17 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。																					
18 完成図等	(1.7.1~3) (表 1.7.1) ◎ 完成図 ◎ 作成する ・ 作成しない 提出するもの ・ 原図 ・ 青焼製本 部 ・ CAD データ サイズ ・ A1 ・ A2 ・ A3 ・ CD-R 完成図、金抜内訳書、完成写真、申請書類、保証書を収録したもの (詳細は営繕課完成図書 CD 化仕様書による) ・ 維持保全に関する資料 (部数 ※1部)																					
19 設計GL	※ 図示による ・ 設計GLは現状GLとする																					
20 引渡物	・鍵は1カ所につき、3個を1組とし、プラスチック札に室名を記入して提出する。 ・マスター鍵は、1組3個とし、木製及び金属製建具共通とする。 ・スチール製キーボックス																					

章	項 目	特 記 事 項																				
1 一般共通事項	21 提出書類	<p>※ 写 真</p> <table border="1" data-bbox="539 208 1463 353"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>内 容</th> <th>枚数</th> <th>部数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>工事写真</td> <td>適宜</td> <td>1</td> <td>電子納品</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>完成写真(支払用:内外観, 施工前後)</td> <td>各2枚以上</td> <td>1</td> <td>A4台紙(サビ入)</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>完成写真(データ共)</td> <td>適宜</td> <td>2</td> <td>アルバム(キビネ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>工事写真の電子納品(「茨城県土木部営繕工事電子納品の取扱い」による)完成写真(アルバム)の撮影業者 ※監督員の承諾する撮影業者(ただし、建築完成写真撮影実績のある業者とする)</p> <p>◎ 規格品証明書(原品証明書, 同等品試験証明書, 試験成績書等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガス圧接作業員技量資格証明書(写し) ・ ガス圧接試験報告書 ・ コンクリート強度試験報告書 ・ 杭打結果報告書 ・ 溶接工技量証明書(表・裏とも写し) <p>◎ 防水保証書(3-1, 2, 3, 4は10年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート配合計画書 <p>◎ 工事実績情報の登録内容確認書の写し</p> <p>◎ 火災保険等に加入したことを証明できる書類</p> <p>◎ 建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書の写し</p> <p>◎ 施工体制台帳の写し</p> <p>◎ 施工体系図の写し</p> <p>◎ 産業廃棄物処理関係書類(産業廃棄物運搬委託契約書及び許可書の写し, 産業廃棄物処理委託契約書及び許可書の写し, マニフェストの写し等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内装材(下地を含む)にVOC材料を使用した場合は, 製品安全データシート(MSDS)及びホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン, 有機リン系の含有率のデータシート ・ 室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定報告書 <p>◎ 建設副産物実態調査に関するデータ保存FD及び出力調査票</p> <p>◎その他 監督員が必要と認め, 指示した書類及び部数</p>	適用	内 容	枚数	部数	備考	◎	工事写真	適宜	1	電子納品	◎	完成写真(支払用:内外観, 施工前後)	各2枚以上	1	A4台紙(サビ入)	・	完成写真(データ共)	適宜	2	アルバム(キビネ)
	適用	内 容	枚数	部数	備考																	
◎	工事写真	適宜	1	電子納品																		
◎	完成写真(支払用:内外観, 施工前後)	各2枚以上	1	A4台紙(サビ入)																		
・	完成写真(データ共)	適宜	2	アルバム(キビネ)																		
22 埋蔵文化財	<p>※ 文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掘削作業に際しては, 工事立会, 試掘確認調査等を要する。施工にあたっては, あらかじめ, 工事日程, 掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上, 監督員, 施設管理担当, 教育庁文化課担当と協議を行うこと。 ・ 掘削作業に際しては, 慎重に施工のこと。施工にあたり, 文化財その他の埋蔵物を発見した場合は, 直ちにその状況を監督員に報告すること。 																					

章	項目	特記事項																					
2 仮設工事	1 足場	(2.2.4) 足場を設ける場合は、「標準仕様書」2.2.4(b)によるほか、設置においては、「手すり先攻工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。																					
	2 監督員事務所	(2.3.1) ※ 設ける 規模： m ³ 程度 仕上げの程度： 程度 備え付ける備品： ・ 机 脚 ・ 椅子 脚 ・ ロッカー 台 ・ 書棚 台 ・ ホワイトボード ・ 製図板 ・ 掛時計 ・ 寒暖計 ・ ゴム長靴 ・ 雨合羽 ・ 保護帽 ・ 懐中電灯 ・ 安全帯 ・ 受注者加入電話の子機 ・ 暖冷房機 ・ 消火器 ・ 湯沸器 ・ 掃除具 ・ その他 () ◎ 設けないが 備品提出；建築工事共通仕様書 (H28 年版)																					
	3 工事用水	構内既存の施設 ・ なし ◎ あり (◎ 利用できる (無償) ※ 利用できない)																					
	4 工事用電力	構内既存の施設 ・ なし ◎ あり (◎ 利用できる (無償) ※ 利用できない)																					
	5 養生	[表 2.3.1] 既存部分の養生 ◎ ビニールシート等 ・ 既存家具等の養生 ※ ビニールシート等 ・ 固定家具等の移動 ※ 行わない ・ 行う (図示) 既存ブラインド、カーテン等 養生方法 () 保管場所 ()																					
	6 仮設間仕切り	[2.3.2][表 2.3.1] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>下地</th> <th>材質</th> <th>塗装</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ A種</td> <td rowspan="2">※ 軽量鉄骨 ・ 木下地</td> <td>・ 合板 (※9.0 ・)</td> <td rowspan="2">※ 無し ・ 片面</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・ B種</td> <td>※ 石膏ボード (※9.5 ・)</td> </tr> <tr> <td>※ C種</td> <td>単管下地</td> <td>防災シート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>仮設扉</td> <td>※ 木製扉 ・ 鋼製扉</td> <td>※合板張り程度 ・ ※片面フラッシュ程度 ・</td> <td>※ 無し ・ 有り</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 充てん材 ※ガラスウール 32K(厚：50mm 以上)	種別	下地	材質	塗装	施工箇所	・ A種	※ 軽量鉄骨 ・ 木下地	・ 合板 (※9.0 ・)	※ 無し ・ 片面		・ B種	※ 石膏ボード (※9.5 ・)	※ C種	単管下地	防災シート			仮設扉	※ 木製扉 ・ 鋼製扉	※合板張り程度 ・ ※片面フラッシュ程度 ・	※ 無し ・ 有り
種別	下地	材質	塗装	施工箇所																			
・ A種	※ 軽量鉄骨 ・ 木下地	・ 合板 (※9.0 ・)	※ 無し ・ 片面																				
・ B種		※ 石膏ボード (※9.5 ・)																					
※ C種	単管下地	防災シート																					
仮設扉	※ 木製扉 ・ 鋼製扉	※合板張り程度 ・ ※片面フラッシュ程度 ・	※ 無し ・ 有り																				

章	項目	特記事項																												
3 防水改修工事	1 アスファルト防水	<p style="text-align: right;">[3.3.2.3] [表3.1.1] [表3.3.3~10]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">防水改修工法の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>新規防水層の種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">保護 防水</td> <td>・P1B</td> <td></td> <td>・B-1 ※B-2</td> </tr> <tr> <td>・P1BI ・T1BI</td> <td></td> <td>・BI-1※BI-2</td> </tr> <tr> <td>・P2AI</td> <td></td> <td>・AI-1※AI-2</td> </tr> <tr> <td>・P2A</td> <td></td> <td>・A-1 ※A-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">露出 防水</td> <td>・M4C</td> <td></td> <td>・C-1 ※C-2</td> </tr> <tr> <td>・M3D ・POD</td> <td></td> <td>・D-1 ※D-2</td> </tr> <tr> <td>屋内 防水</td> <td>・P1E ・P2E</td> <td></td> <td>・E-1 ※E-2 [保護層は図示による]</td> </tr> </tbody> </table> <p>アスファルトの種類 ※ 3種 [3.2.2] [3.3.2] 保護コンクリートのコンクリートの種類 ※無筋コンクリート [3.3.2] POD工法の改修ドレン ※設けない ・設ける [3.2.5] M3D, POD工法の脱気装置 ※設けない ・設ける [3.3.3] 既存露出防水層表面の仕上塗装 (M4C工法の場合) ・除去する [3.2.6] 断熱工法の断熱材 ・厚さ (mm) ※25 ただしノンフロンのもの [3.3.2] 立ち上がり部の保護 [3.3.2] ・れんがの種類 ※見え隠れ部分は市販品のれんが又は、市販品のれんが形コンクリートブロックとする。 ・乾式保護材の材料 ※押出成形セメント板 厚さ 15mm</p>	防水改修工法の種類		施工箇所	新規防水層の種別	保護 防水	・P1B		・B-1 ※B-2	・P1BI ・T1BI		・BI-1※BI-2	・P2AI		・AI-1※AI-2	・P2A		・A-1 ※A-2	露出 防水	・M4C		・C-1 ※C-2	・M3D ・POD		・D-1 ※D-2	屋内 防水	・P1E ・P2E		・E-1 ※E-2 [保護層は図示による]
	防水改修工法の種類		施工箇所	新規防水層の種別																										
	保護 防水	・P1B		・B-1 ※B-2																										
・P1BI ・T1BI			・BI-1※BI-2																											
・P2AI			・AI-1※AI-2																											
・P2A			・A-1 ※A-2																											
露出 防水	・M4C		・C-1 ※C-2																											
	・M3D ・POD		・D-1 ※D-2																											
屋内 防水	・P1E ・P2E		・E-1 ※E-2 [保護層は図示による]																											
2 改質アスファルトシート防水	<p style="text-align: right;">[3.4.2] [表3.1.1] [3.4.3] [表3.4.1~3]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>改修工法の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>新規防水層の種別</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・M4ASI法</td> <td></td> <td>・AS-1 ・AS-2 ・AS-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・M3ASI法 ・POASI法</td> <td></td> <td>・AS-4 ・AS-5 ・AS-6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・M3ASI工法 ・M4ASI工法 ・POASI工法</td> <td></td> <td>・ASI-1 ・ASI-2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>脱気装置 ※設けない ・設ける</p>	改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	厚さ (mm)	・M4ASI法		・AS-1 ・AS-2 ・AS-3		・M3ASI法 ・POASI法		・AS-4 ・AS-5 ・AS-6		・M3ASI工法 ・M4ASI工法 ・POASI工法		・ASI-1 ・ASI-2														
改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	厚さ (mm)																											
・M4ASI法		・AS-1 ・AS-2 ・AS-3																												
・M3ASI法 ・POASI法		・AS-4 ・AS-5 ・AS-6																												
・M3ASI工法 ・M4ASI工法 ・POASI工法		・ASI-1 ・ASI-2																												
3 合成分子系ルーフィングシート防水	<p style="text-align: right;">[3.5.2] [表3.1.1] [3.5.3] [表3.5.1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>防水改修工法の種類</th> <th>施工箇所</th> <th>新規防水層の種別</th> <th>仕上げ塗料塗り</th> <th>使用分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・POS工法 ・S4S工法 ・S3S工法</td> <td></td> <td>・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2</td> <td>・シルバー ・カラー</td> <td>※ 非歩行 ・ 軽歩行</td> </tr> <tr> <td>・M4S工法</td> <td></td> <td>・S-M1 ・S-M2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・POS工法 ・S3S工法 ・S4S工法 ・M4S工法</td> <td></td> <td>・SI-F1 ・SI-F2 ・SI-M1 ・SI-M2 ・SI-M3</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>脱気装置 ・設ける ・設けない [3.5.3] 目地処理 PCコンクリートの場合 () [3.5.4]</p>	防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	仕上げ塗料塗り	使用分類	・POS工法 ・S4S工法 ・S3S工法		・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2	・シルバー ・カラー	※ 非歩行 ・ 軽歩行	・M4S工法		・S-M1 ・S-M2			・POS工法 ・S3S工法 ・S4S工法 ・M4S工法		・SI-F1 ・SI-F2 ・SI-M1 ・SI-M2 ・SI-M3											
防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種別	仕上げ塗料塗り	使用分類																										
・POS工法 ・S4S工法 ・S3S工法		・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2	・シルバー ・カラー	※ 非歩行 ・ 軽歩行																										
・M4S工法		・S-M1 ・S-M2																												
・POS工法 ・S3S工法 ・S4S工法 ・M4S工法		・SI-F1 ・SI-F2 ・SI-M1 ・SI-M2 ・SI-M3																												

章	項 目	特 記 事 項																	
3 防水改修工事	4 塗膜防水	<p style="text-align: right;">[表 3.1.1][3.6.3][表 3.6.1~2]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">防水改修工法の種類</th> <th style="width: 25%;">施工箇所</th> <th style="width: 25%;">新設防水層の種類</th> <th style="width: 25%;">仕上げ塗料塗り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎ P O X 工法</td> <td>平面</td> <td>※ X-1</td> <td rowspan="4">◎ カラー ・ シルバー</td> </tr> <tr> <td>◎ L 4 X 工法</td> <td>立ち上がり</td> <td>※ X-2</td> </tr> <tr> <td>・ P 1 Y 工法</td> <td></td> <td>※ Y-1</td> </tr> <tr> <td>・ P 2 Y 工法</td> <td></td> <td>※ Y-2</td> </tr> </tbody> </table> <p>既存塗膜防水表面の仕上げ塗料（L 4 X 工法の場合） ・ 除去する [3.2.6] 脱気装置 ・ 設けない ◎ 設ける [3.6.3]</p>	防水改修工法の種類	施工箇所	新設防水層の種類	仕上げ塗料塗り	◎ P O X 工法	平面	※ X-1	◎ カラー ・ シルバー	◎ L 4 X 工法	立ち上がり	※ X-2	・ P 1 Y 工法		※ Y-1	・ P 2 Y 工法		※ Y-2
	防水改修工法の種類	施工箇所	新設防水層の種類	仕上げ塗料塗り															
	◎ P O X 工法	平面	※ X-1	◎ カラー ・ シルバー															
◎ L 4 X 工法	立ち上がり	※ X-2																	
・ P 1 Y 工法		※ Y-1																	
・ P 2 Y 工法		※ Y-2																	
5 脱気装置	<p style="text-align: right;">[3.3.3][3.4.3][3.5.3][3.6.3]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">種類</th> <th style="width: 40%;">材質</th> <th style="width: 30%;">設置数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎ 平面部脱気型</td> <td>・ ポリエポキシ樹脂 ・ ABS樹脂 ◎ スチール ・ 鋳鉄</td> <td>◎ 11ヶ所 1ヶ/50㎡程度</td> </tr> <tr> <td>・ 立ち上がり部脱気型</td> <td>・ 合成ゴム ・ 塩化ビニル樹脂 ・ スチール ・ 銅</td> <td>() ㎡当たり1箇所</td> </tr> </tbody> </table>	種類	材質	設置数量	◎ 平面部脱気型	・ ポリエポキシ樹脂 ・ ABS樹脂 ◎ スチール ・ 鋳鉄	◎ 11ヶ所 1ヶ/50㎡程度	・ 立ち上がり部脱気型	・ 合成ゴム ・ 塩化ビニル樹脂 ・ スチール ・ 銅	() ㎡当たり1箇所									
種類	材質	設置数量																	
◎ 平面部脱気型	・ ポリエポキシ樹脂 ・ ABS樹脂 ◎ スチール ・ 鋳鉄	◎ 11ヶ所 1ヶ/50㎡程度																	
・ 立ち上がり部脱気型	・ 合成ゴム ・ 塩化ビニル樹脂 ・ スチール ・ 銅	() ㎡当たり1箇所																	
6 シーリング	<p>シーリング改修工法の種類 [3.7.4~7][表 3.7.1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シーリング充てん工法 ・ シーリング再充てん工法 ・ 拡幅シーリング再充てん工法 ・ ブリッジ工法 <p>シーリング材の施工箇所、種類 [3.7.2][表 3.7.1] ※下記以外は、改修標準仕様書 表 3.7.1 を標準とする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">施 工 箇 所</th> <th style="width: 50%;">シーリング材の種類（記号）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>外部に面するシーリングの接着性試験 (9.6.5) ※ 同じ材料の組み合わせによる試験成績書提出（試験省略）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 	施 工 箇 所	シーリング材の種類（記号）																
施 工 箇 所	シーリング材の種類（記号）																		

章	項目	特記事項																
3 防水改修工事	7 とい	<p>といの材種 [3.8.2][表3.8.1]</p> <p>※ 配管用鋼管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ・ 建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管 (RF-VP)</p> <p>鋼管製といの防露 [3.8.3][表3.8.4] ・ 次の箇所は行わない () ロックウール保温筒及びグラスウール保温筒のホルムアルデヒドの放散量</p> <p>※規制対象外 ・ 第三種</p> <p>掃除口 ※有り ・ 無し</p> <p>縦どい受け金物の取り付け ※図示 ・ 標準仕様書 13.5.3(d)(2)による [3.8.3]</p>																
	8 アルミニウム製笠木	<p>[3.9.2][表3.9.1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>呼称肉厚 (mm)</th> <th>表面処理</th> <th>固定間隔</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 250 形</td> <td>1.6 以上</td> <td rowspan="4">※ A-1 又は B-1 種 ・ B-2 種</td> <td rowspan="4">固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの</td> <td rowspan="4">隅角部及び突き当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。</td> </tr> <tr> <td>・ 300 形</td> <td>1.8 以上</td> </tr> <tr> <td>・ 350 形</td> <td>2.0 以上</td> </tr> <tr> <td>・ 100 形</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>板材折曲げ形の取付工法 ・ 図示 ・ [3.9.3] 工法 既存笠木等の除去 ・ 行う (範囲 ※ 図示 ・) 下地補修の工法 ※ 図示 ・ 板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※ 図示 ・</p>	種類	呼称肉厚 (mm)	表面処理	固定間隔	備考	・ 250 形	1.6 以上	※ A-1 又は B-1 種 ・ B-2 種	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突き当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。	・ 300 形	1.8 以上	・ 350 形	2.0 以上	・ 100 形	
	種類	呼称肉厚 (mm)	表面処理	固定間隔	備考													
・ 250 形	1.6 以上	※ A-1 又は B-1 種 ・ B-2 種	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突き当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。														
・ 300 形	1.8 以上																	
・ 350 形	2.0 以上																	
・ 100 形																		
9 折板葺	<p>(13.3.2, 3) (表 13.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>※重ね形 ・ はぜ締め形 ・ かん合形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形状 (mm)</td> <td>山高 () 山ピッチ () 板厚 ※0.6 ・ 0.8</td> </tr> <tr> <td>材料 (規格等)</td> <td>※塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 (GGLCCR-20-AZ 150) ・</td> </tr> <tr> <td>軒先面戸板</td> <td>※有り ・ 無し</td> </tr> <tr> <td>断熱材</td> <td>※有り (種別 : 厚さ : mm) ・ 無し</td> </tr> <tr> <td>防火性能</td> <td>※30分耐火 ・ 無し</td> </tr> </tbody> </table>	形式	※重ね形 ・ はぜ締め形 ・ かん合形	形状 (mm)	山高 () 山ピッチ () 板厚 ※0.6 ・ 0.8	材料 (規格等)	※塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 (GGLCCR-20-AZ 150) ・	軒先面戸板	※有り ・ 無し	断熱材	※有り (種別 : 厚さ : mm) ・ 無し	防火性能	※30分耐火 ・ 無し					
形式	※重ね形 ・ はぜ締め形 ・ かん合形																	
形状 (mm)	山高 () 山ピッチ () 板厚 ※0.6 ・ 0.8																	
材料 (規格等)	※塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 (GGLCCR-20-AZ 150) ・																	
軒先面戸板	※有り ・ 無し																	
断熱材	※有り (種別 : 厚さ : mm) ・ 無し																	
防火性能	※30分耐火 ・ 無し																	

章	項目	特記事項																																						
4 外壁改修工事	1 施工数量調査	<p>調査範囲 ※ 外壁改修範囲 ・ 図示の範囲 [1.5.2]</p> <p>調査内容</p> <p>ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。</p> <p>モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。</p> <p>コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。</p> <p>塗り仕上げについては、コンクリート又はモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。</p> <p>調査結果を立面図に明示し、数量とともに、調査報告書としてまとめ、提出する。</p>																																						
	2 改修材料	<p>・ 既製調合モルタル [4.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">保水率 (%)</th> <th rowspan="2">単位容積質量 (kg/l)</th> <th colspan="2">接着強さ (N/mm²)</th> <th rowspan="2">長さ変化率 (%)</th> <th rowspan="2">曲げ強さ (N/mm²)</th> </tr> <tr> <th>標準時</th> <th>温冷繰り返し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70.0 以上</td> <td>1.80 程度</td> <td>0.60 以上</td> <td>0.40 以上</td> <td>0.20 以下</td> <td>4.0 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ パテ状エポキシ樹脂 [4.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期硬化性(標準)</th> <th>接着強さ(標準)</th> <th>圧縮強さ</th> <th>曲げ強さ</th> <th>硬化収縮率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.0N/mm² 以上</td> <td>6.0N/mm² 以上</td> <td>50.0N/mm² 以上</td> <td>30.0N/mm²</td> <td>3.0 (%) 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 b. 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 c. 常温常湿 (温度 20±15℃, 湿度 65±20%) において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。</p> <p>・ 可とう性エポキシ樹脂 [4.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>性能</th> <th>常温物性</th> <th>低温性</th> <th>加熱変化</th> <th>引張接着性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引張強さ</td> <td>1.0N/mm² 以上</td> <td>1.0N/mm² 以上</td> <td>1.0N/mm² 以上</td> <td>最大引張応力 1.0N/mm² 以上</td> </tr> <tr> <td>伸び</td> <td>30.0%以上</td> <td>30.0%以上</td> <td>30.0%以上</td> <td>破断時の伸び 10%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>比重 表示値±0.10 押出し性 60秒以内 スランプ 3mm 以下 加熱減量 5%以下</p> <p>a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 b. 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 c. 常温常湿 (温度 20±15℃, 湿度 65±20%) において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。</p>	保水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	接着強さ (N/mm ²)		長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm ²)	標準時	温冷繰り返し後	70.0 以上	1.80 程度	0.60 以上	0.40 以上	0.20 以下	4.0 以上	初期硬化性(標準)	接着強さ(標準)	圧縮強さ	曲げ強さ	硬化収縮率	2.0N/mm ² 以上	6.0N/mm ² 以上	50.0N/mm ² 以上	30.0N/mm ²	3.0 (%) 以下	性能	常温物性	低温性	加熱変化	引張接着性	引張強さ	1.0N/mm ² 以上	1.0N/mm ² 以上	1.0N/mm ² 以上	最大引張応力 1.0N/mm ² 以上	伸び	30.0%以上	30.0%以上	30.0%以上
保水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	接着強さ (N/mm ²)			長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm ²)																																		
		標準時	温冷繰り返し後																																					
70.0 以上	1.80 程度	0.60 以上	0.40 以上	0.20 以下	4.0 以上																																			
初期硬化性(標準)	接着強さ(標準)	圧縮強さ	曲げ強さ	硬化収縮率																																				
2.0N/mm ² 以上	6.0N/mm ² 以上	50.0N/mm ² 以上	30.0N/mm ²	3.0 (%) 以下																																				
性能	常温物性	低温性	加熱変化	引張接着性																																				
引張強さ	1.0N/mm ² 以上	1.0N/mm ² 以上	1.0N/mm ² 以上	最大引張応力 1.0N/mm ² 以上																																				
伸び	30.0%以上	30.0%以上	30.0%以上	破断時の伸び 10%以上																																				

章	項目	特記事項																																																																												
4 外壁 改修 工事		<p>・タイル部分張替え用エポキシ樹脂 [4.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>接着強さ</th> <th>標準</th> <th>低温硬化</th> <th>アルカリ温水</th> <th>冷温水中繰返し</th> <th>熱劣化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強度 (N/mm²)</td> <td>0.60 以上</td> <td>0.40 以上</td> <td>0.40 以上</td> <td>0.40 以上</td> <td>0.40 以上</td> </tr> <tr> <td>凝集破壊率 (%)</td> <td>75 以上</td> <td>50 以上</td> <td>50 以上</td> <td>50 以上</td> <td>50 以上</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>皮膜物性</th> <th>標準</th> <th>高温</th> <th>低温</th> <th>アルカリ温水</th> <th>熱劣化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引張強さ (N/mm²)</td> <td>1.00 以上</td> <td>1.00 以上</td> <td>1.00 以上</td> <td>1.00 以上</td> <td>1.00 以上</td> </tr> <tr> <td>伸び (%)</td> <td>30 以上</td> <td>30 以上</td> <td>30 以上</td> <td>20 以上</td> <td>20 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>貯蔵安定性 容積と粘度に著しい変化がないこと。 耐熱性 JIS A 5548 に準じた試験において、80℃で4週間、9.8N おもりで安定していること。</p> <p>a. 外観は、均質で、有害と認められる異物の混入がないこと。 b. タイル、石材、下地等を侵すものでないこと。 c. 「化学物質の審査及び製造等の規則に関する法律」に基づく特定化学物質及び「労働安全衛生法」に基づく、「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 d. 常温常湿（温度 20±15℃、湿度 65±20%）において製造後6ヶ月間保存しても上記の品質・性能の各項目に適合していること。 e. ずれ抵抗性があること。 f. 混練終結時の確認が容易なように色が明瞭であること。</p> <p>・エポキシ樹脂モルタル [4.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>接着強さ</th> <th>圧縮強さ</th> <th>曲げ強さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.0N/mm² 以上</td> <td>20.0N/mm² 以上</td> <td>10.0N/mm² 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>a. こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。 b. 均質で有害と認められる異物の混入が無いこと。 c. 「労働安全衛生法」に基づく、「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 d. 形状に異常が無く、だれが生じないこと。 e. 常温常湿（温度 20±15℃、湿度 65±20%）において製造後6ヶ月間保存しても上記の品質・性能の各項目に適合していること。</p> <p>・ポリマーセメントモルタル [4.2.2] ポリマーセメントモルタルの種類 合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">曲げ強さ (N/mm²)</th> <th rowspan="2">圧縮強さ (N/mm²)</th> <th colspan="2">接着強さ (N/mm²)</th> <th rowspan="2">低温時</th> </tr> <tr> <th>標準時</th> <th>湿潤時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.0 以上</td> <td>20.0 以上</td> <td>1.0 以上</td> <td>0.8 以上</td> <td>0.5 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>表面状態 だれの下がり量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。 透水性 裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。 均質で有害とみとめられる異物の混入がないこと。</p> <p>・ポリマーセメントスラリー [4.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>広がり速度 (cm/s)</th> <th>長さ変化率 (N/mm²)</th> <th>引張接着性 (材齢28日)</th> <th>曲げ性能 (材齢28日)</th> <th>吸水性 (72時間)</th> <th>耐久性 (劣化曲げ強さ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 以上</td> <td>3%以下</td> <td>0.5N/mm² 以上</td> <td>5.0N/mm² 以上</td> <td>15%以下</td> <td>5.0N/mm² 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>保水係数 0.35～0.55 粘調係数 0.50～1.00</p> <p>・吸水調整材 [4.2.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>全固形分 (%)</th> <th>吸水性 (g)</th> <th>接着強 (N/mm²)</th> <th>界面破断率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品質・性能</td> <td>表示値±1%以内</td> <td>30分間で1g以下</td> <td>0.98 以上</td> <td>50%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>均質で有害と認められる異物の混入が無いこと。</p>	接着強さ	標準	低温硬化	アルカリ温水	冷温水中繰返し	熱劣化	強度 (N/mm ²)	0.60 以上	0.40 以上	0.40 以上	0.40 以上	0.40 以上	凝集破壊率 (%)	75 以上	50 以上	50 以上	50 以上	50 以上	皮膜物性	標準	高温	低温	アルカリ温水	熱劣化	引張強さ (N/mm ²)	1.00 以上	伸び (%)	30 以上	30 以上	30 以上	20 以上	20 以上	接着強さ	圧縮強さ	曲げ強さ	1.0N/mm ² 以上	20.0N/mm ² 以上	10.0N/mm ² 以上	曲げ強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)		低温時	標準時	湿潤時	6.0 以上	20.0 以上	1.0 以上	0.8 以上	0.5 以上	広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (N/mm ²)	引張接着性 (材齢28日)	曲げ性能 (材齢28日)	吸水性 (72時間)	耐久性 (劣化曲げ強さ)	3 以上	3%以下	0.5N/mm ² 以上	5.0N/mm ² 以上	15%以下	5.0N/mm ² 以上	項目	全固形分 (%)	吸水性 (g)	接着強 (N/mm ²)	界面破断率 (%)	品質・性能	表示値±1%以内	30分間で1g以下	0.98 以上	50%以上				
	接着強さ	標準	低温硬化	アルカリ温水	冷温水中繰返し	熱劣化																																																																								
	強度 (N/mm ²)	0.60 以上	0.40 以上	0.40 以上	0.40 以上	0.40 以上																																																																								
	凝集破壊率 (%)	75 以上	50 以上	50 以上	50 以上	50 以上																																																																								
	皮膜物性	標準	高温	低温	アルカリ温水	熱劣化																																																																								
	引張強さ (N/mm ²)	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上	1.00 以上																																																																								
	伸び (%)	30 以上	30 以上	30 以上	20 以上	20 以上																																																																								
	接着強さ	圧縮強さ	曲げ強さ																																																																											
	1.0N/mm ² 以上	20.0N/mm ² 以上	10.0N/mm ² 以上																																																																											
	曲げ強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)		低温時																																																																									
			標準時	湿潤時																																																																										
	6.0 以上	20.0 以上	1.0 以上	0.8 以上	0.5 以上																																																																									
広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (N/mm ²)	引張接着性 (材齢28日)	曲げ性能 (材齢28日)	吸水性 (72時間)	耐久性 (劣化曲げ強さ)																																																																									
3 以上	3%以下	0.5N/mm ² 以上	5.0N/mm ² 以上	15%以下	5.0N/mm ² 以上																																																																									
項目	全固形分 (%)	吸水性 (g)	接着強 (N/mm ²)	界面破断率 (%)																																																																										
品質・性能	表示値±1%以内	30分間で1g以下	0.98 以上	50%以上																																																																										

章	項 目	特 記 事 項																																					
4 の 1 コンクリート工事打放し仕上げ外壁	1 ひび割れ部改修工法	<p>※ 樹脂注入工法 [4.1.4] [4.3.4~6]</p> <table border="1" data-bbox="529 208 1465 461"> <thead> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (ml/m)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2 以上～1.0 以下</td> <td>※200～300</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2 以上～0.3 未満</td> <td>※50～100</td> <td>※40</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>0.3 以上～0.5 未満</td> <td>※100～200</td> <td>※70</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.5 以上～1.0 以下</td> <td>※150～250</td> <td>※130</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注入材料 [4.2.2] ※ 建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形) ・ 検査(コア抜き取り) ※行わない [4.3.4] ・ 行う (抜き取り部の補修方法:)</p> <p>・ Uカットシール材充てん工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.3.5]</p> <table border="1" data-bbox="529 703 1465 896"> <thead> <tr> <th>充てん材料</th> <th>品質・規格等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・シーリング用材料</td> <td>※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・</td> <td>ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う</td> </tr> <tr> <td>・可とう性エポキシ樹脂</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ シール工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.3.6] ・ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ 既存塗り仕上げ材の撤去及び補修 (※シール工法の範囲 ・)</p>	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～1.0 以下	※200～300	・		・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～0.3 未満	※50～100	※40	・	0.3 以上～0.5 未満	※100～200	※70	・	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5 以上～1.0 以下	※150～250	※130	・		・	・		充てん材料	品質・規格等	備考	・シーリング用材料	※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う	・可とう性エポキシ樹脂		
	注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考																																		
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～1.0 以下	※200～300	・																																				
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～0.3 未満	※50～100	※40	・																																			
	0.3 以上～0.5 未満	※100～200	※70	・																																			
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5 以上～1.0 以下	※150～250	※130	・																																			
		・	・																																				
充てん材料	品質・規格等	備考																																					
・シーリング用材料	※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う																																					
・可とう性エポキシ樹脂																																							
2 欠損部改修工法	※充てん工法 [4.1.4] [4.2.2] [4.3.7] ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル																																						

章	項目	特記事項																																					
4 の 2 モルタル塗り仕上げ外壁	1 既存モルタル塗りの撤去	・ 行う (※全面 ・ 図示の範囲)																																					
	2 ひび割れ部改修工法	<p>・ 既存モルタル撤去工法 (範囲は図示 撤去部分の補修は、3. 欠損部改修工法による)</p> <p>※ 樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 4. 2] [4. 4. 5]</p> <p>(※ 既存モルタル面 ・ 既存躯体コンクリート面)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入口間隔(mm)</th> <th>注入量(ml/m)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2 以上~1.0 以下</td> <td>※200~300</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2 以上~0.3 未満</td> <td>※50~100</td> <td>※40</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>0.3 以上~0.5 未満</td> <td>※100~200</td> <td>※70</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>0.5 以上~1.0 以下</td> <td>※150~250</td> <td>※130</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注入材料 [4. 2. 2] ※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形)</p> <p>・</p> <p>検査 (コア抜き取り) ※行わない [4. 3. 4] ・ 行う (抜き取り部の補修方法 :)</p> <p>・ Uカットシーリング材充てん工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充てん材料</th> <th>品質・規格等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ シーリング用材料</td> <td>※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング</td> <td>ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う</td> </tr> <tr> <td>・ 可とう性エポキシ樹脂</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ シール工法 (※既存モルタル面 ・ 既存躯体コンクリート面) [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 7] ・ パテ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂 ・ 既存塗り仕上げ材の撤去及び補修 [4. 4. 2] [4. 6. 3] (※シール工法の範囲 ・)</p>	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上~1.0 以下	※200~300	・		・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上~0.3 未満	※50~100	※40	・	0.3 以上~0.5 未満	※100~200	※70	・	0.5 以上~1.0 以下	※150~250	※130	・			・	・		充てん材料	品質・規格等	備考	・ シーリング用材料	※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う	・ 可とう性エポキシ樹脂		
	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備考																																		
	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上~1.0 以下	※200~300	・																																			
	・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上~0.3 未満	※50~100	※40	・																																		
		0.3 以上~0.5 未満	※100~200	※70	・																																		
		0.5 以上~1.0 以下	※150~250	※130	・																																		
			・	・																																			
	充てん材料	品質・規格等	備考																																				
	・ シーリング用材料	※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う																																				
・ 可とう性エポキシ樹脂																																							
3 欠損部改修工法	<p>既存モルタル面の欠損部 [4. 1. 4] [4. 4. 8~9]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>改修工法の種類</th> <th>材料</th> <th>品質・規格等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 充てん工法</td> <td>ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ モルタル塗替え工法</td> <td>改修標仕 4. 2. 2 (g) による</td> <td>塗り厚 25mm を超える場合の補強 ※行う ・ 行わない ・ 図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>既製目地材 ・ 適用する (形状 ※図示 ・) [4. 2. 2]</p>	改修工法の種類	材料	品質・規格等	・ 充てん工法	ポリマーセメントモルタル		・ モルタル塗替え工法	改修標仕 4. 2. 2 (g) による	塗り厚 25mm を超える場合の補強 ※行う ・ 行わない ・ 図示																													
改修工法の種類	材料	品質・規格等																																					
・ 充てん工法	ポリマーセメントモルタル																																						
・ モルタル塗替え工法	改修標仕 4. 2. 2 (g) による	塗り厚 25mm を超える場合の補強 ※行う ・ 行わない ・ 図示																																					

章	項 目	特 記 事 項					
4 の 2 モルタル塗り仕上げ外壁	4 浮き部改修工法	[4. 1. 4] [4. 4. 10~15] [表 4. 4. 3~4]					
		改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	アンカーの本数 (本/m)		注入口の個所数 (個所/m)		充填量
			一般部	指定部	一般部	指定部	注入量
		・ アンカーニング 部分 珪 樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・	—	—	※25ml ・
		・ アンカーニング 全面 珪 樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml ・
		・ アンカーニング 全面 ポ リマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50ml ・
		・ 注入口付アンカーニング 部分 珪 樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	—	—	※25ml ・
		・ 注入口付アンカーニング 全面 珪 樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25ml ・
		・ 注入口付アンカーニング 全面 ポ リマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・
		アンカーピン		[4. 2. 2]			
材質 ※ステンレス SUS304, 呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの							
注入口付アンカーピン		[4. 2. 2]					
材質 ※ステンレス SUS304, 呼び径外径 6mm							

章	項目	特記事項																																					
4 の 3 タ イ ル 張 り 仕 上 げ 外 壁	1 既存タイル張りの撤去	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁タイル張り全面 ・ 図示の範囲 撤去範囲 ※ 下地モルタルまで ・ 張付けモルタルまで ・ タイルのみ 																																					
	2 ひび割れ部改修工法	<p>改修箇所 ※既存タイル張り面 ・ 既存タイル撤去面 (・ コンクリート面 ・ モルタル面)</p> <p>※樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 3. 4] [4. 5. 5]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>注入工法の種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入口間隔(mm)</th> <th>注入量(ml/m)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2 以上～1.0 以下</td> <td>※200～300</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2 以上～0.3 未満</td> <td>※50～100</td> <td>※40</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>0.3 以上～0.5 未満</td> <td>※100～200</td> <td>※70</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.5 以上～1.0 以下</td> <td>※150～250</td> <td>※130</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注入材料 [4. 2. 2] ※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A 6024 低粘度形又は中粘度形)</p> <p>検査(コア抜き取り) ※行わない [4. 3. 4] ・ 行う (抜き取り部の補修方法 :)</p> <p>・ Uカットシール材充てん工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 4. 6]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充てん材料</th> <th>品質・規格等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ シーリング用材料</td> <td>※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング</td> <td>ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う</td> </tr> <tr> <td>・ 可とう性エポキシ樹脂</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備 考	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～1.0 以下	※200～300	・		・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～0.3 未満	※50～100	※40	・	0.3 以上～0.5 未満	※100～200	※70	・	・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5 以上～1.0 以下	※150～250	※130	・		・	・		充てん材料	品質・規格等	備考	・ シーリング用材料	※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う	・ 可とう性エポキシ樹脂		
	注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備 考																																		
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～1.0 以下	※200～300	・																																				
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2 以上～0.3 未満	※50～100	※40	・																																			
	0.3 以上～0.5 未満	※100～200	※70	・																																			
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5 以上～1.0 以下	※150～250	※130	・																																			
		・	・																																				
充てん材料	品質・規格等	備考																																					
・ シーリング用材料	※1 成分形又は2 成分形 ポリウレタン系シーリング	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・ 行う																																					
・ 可とう性エポキシ樹脂																																							
3 欠損部改修工法	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイル部分張替え工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2] [4. 5. 7] タイル部分張替え工法用接着材 ※ ポリマーセメントモルタル <ul style="list-style-type: none"> ・ 変形シリコーン樹脂 ・ ポリウレタン樹脂 ・ タイル張替え工法 [4. 1. 4] [4. 5. 8] 伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地 [4. 5. 8] [表 4. 5. 1] 位置 ※ 改修標準仕様書表 4.5.1 による ・ 図示 																																						

章	項目	特記事項																																																																																						
4 の 3 タイル張り仕上げ外壁	4 浮き部改修工法	<p>[4. 1. 4] [4. 4. 9~15] [表 4. 4. 3~4]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)</th> <th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/m²)</th> <th colspan="2">注入口の個所数 (個所/m²)</th> <th>充填量</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>注入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーピン^注部分 球^注樹脂注入工法</td> <td>※16 ・</td> <td>・25 ・</td> <td></td> <td></td> <td>※25ml -</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピン^注全面 球^注樹脂注入工法</td> <td>※13 ・</td> <td>※20 ・</td> <td>※12 ・</td> <td>※20 ・</td> <td>※25ml ・</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピン^注全面 ポ^注リマセメントス^注リ注入工法</td> <td>※13 ・</td> <td>※20 ・</td> <td>※12 ・</td> <td>・20 ・</td> <td>・25ml ※50ml</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピン^注部分 球^注樹脂注入工法</td> <td>※9 ・</td> <td>・16 ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピン^注全面 球^注樹脂注入工法</td> <td>※9 ・</td> <td>※16 ・</td> <td>※9 ・</td> <td>※16 ・</td> <td>※25ml ・</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピン^注全面 ポ^注リマセメントス^注リ注入工法</td> <td>※9 ・</td> <td>※16 ・</td> <td>※9 ・</td> <td>※16 ・</td> <td>※50ml ・</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピン^注全面 球^注樹脂注入タイル固定工法</td> <td>※9 ・</td> <td>※16 ・</td> <td>※9 ・</td> <td>※16 ・</td> <td>※50ml ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>アンカーピン [4. 2. 2] 材質 ※ ステンレス SUS304, 呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの</p> <p>注入口付アンカーピン [4. 2. 2] 材質 ※ ステンレス SUS304, 呼び径外径 6mm</p>	改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数 (本/m ²)		注入口の個所数 (個所/m ²)		充填量	一般部	指定部	一般部	指定部	注入量	・アンカーピン ^注 部分 球 ^注 樹脂注入工法	※16 ・	・25 ・			※25ml -	・アンカーピン ^注 全面 球 ^注 樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml ・	・アンカーピン ^注 全面 ポ ^注 リマセメントス ^注 リ注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	・20 ・	・25ml ※50ml	・注入口付アンカーピン ^注 部分 球 ^注 樹脂注入工法	※9 ・	・16 ・				・注入口付アンカーピン ^注 全面 球 ^注 樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25ml ・	・注入口付アンカーピン ^注 全面 ポ ^注 リマセメントス ^注 リ注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・	・注入口付アンカーピン ^注 全面 球 ^注 樹脂注入タイル固定工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・																																	
	改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数 (本/m ²)		注入口の個所数 (個所/m ²)		充填量																																																																																		
一般部		指定部	一般部	指定部	注入量																																																																																			
・アンカーピン ^注 部分 球 ^注 樹脂注入工法	※16 ・	・25 ・			※25ml -																																																																																			
・アンカーピン ^注 全面 球 ^注 樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25ml ・																																																																																			
・アンカーピン ^注 全面 ポ ^注 リマセメントス ^注 リ注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	・20 ・	・25ml ※50ml																																																																																			
・注入口付アンカーピン ^注 部分 球 ^注 樹脂注入工法	※9 ・	・16 ・																																																																																						
・注入口付アンカーピン ^注 全面 球 ^注 樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25ml ・																																																																																			
・注入口付アンカーピン ^注 全面 ポ ^注 リマセメントス ^注 リ注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・																																																																																			
・注入口付アンカーピン ^注 全面 球 ^注 樹脂注入タイル固定工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50ml ・																																																																																			
5 陶磁器質タイル張り	タイルの種類	[4. 2. 2] [4. 5. 7~8]																																																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">主な用途による区分 施工箇所</th> <th rowspan="2">形状・寸法 (mm)</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわ薬</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材 の適用</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I 類</th> <th>II 類</th> <th>III 類</th> <th>施釉</th> <th>無釉</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>役物：標準的な曲がり（小口，標準，二丁，屏風）の役物は一体成形とする タイルの見本焼き ※ 行わない ・ 行う</p> <p>壁タイル張りの工法 [4. 5. 7~8] [表 4. 5. 3] 外壁タイル ・ 密着張り ・ マスク張り ・ 改良積上張り ・ 改良圧着張り ・ モザイクタイル張り タイルの試験張り ※行わない ・ 行う</p>	主な用途による区分 施工箇所	形状・寸法 (mm)	吸水率による区分			うわ薬		役物		色		再生材 の適用	耐凍害性		備考	I 類	II 類	III 類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		
主な用途による区分 施工箇所	形状・寸法 (mm)			吸水率による区分			うわ薬		役物		色			再生材 の適用	耐凍害性		備考																																																																							
		I 類	II 類	III 類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無																																																																												
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
6 目地改修工法	<ul style="list-style-type: none"> 目地ひび割れ部改修工法 [4. 1. 4] [4. 5. 16] 伸縮調整目地改修工法 [4. 1. 4] [4. 5. 16] シーリング材料 [3. 7. 2] [表 3. 7. 1] 種類 ※ 改修標準仕様書 表 3. 7. 1 による 																																																																																							

章	項目	特記事項																	
4 の 4 塗り仕上げ外壁	1 既存塗膜等の除去及び下地処理	<p>既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法 [4.6.3][表4.6.1~4]</p> <table border="1" data-bbox="539 208 1460 465"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>処理範囲</th> <th>下地面の補修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・サンダー工法</td> <td>※ 既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は処理面積の30%とする)</td> <td rowspan="3">4-1又は 4-3による</td> </tr> <tr> <td>・高圧水洗工法 加圧力※30MPa程度以上</td> <td>※ 既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする)</td> </tr> <tr> <td>・塗膜はく離剤工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※水洗い工法</td> <td>・上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※ 既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は処理面積の30%とする)	4-1又は 4-3による	・高圧水洗工法 加圧力※30MPa程度以上	※ 既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする)	・塗膜はく離剤工法		※水洗い工法	・上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体					
	工法	処理範囲	下地面の補修																
	・サンダー工法	※ 既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は処理面積の30%とする)	4-1又は 4-3による																
・高圧水洗工法 加圧力※30MPa程度以上	※ 既存仕上げ面全体 (既存塗膜の除去範囲は既存塗膜の劣化部とする)																		
・塗膜はく離剤工法																			
※水洗い工法	・上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体																		
2 下地調整塗材	<p>※下地調整塗材(※C-1 ・C-2 ・CM-2) [4.2.2][4.6.4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材を使用 																		
3 仕上塗材仕上げ	<p>種類、仕上の形状、工法 [4.1.4][4.2.2][表4.2.3~4]</p> <table border="1" data-bbox="539 667 1460 1444"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・薄付け仕上塗材</td> <td>・外装薄塗材S i ・可とう形外装薄塗材S i ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E ・外装薄塗材S</td> <td>・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・砂壁状</td> </tr> <tr> <td>・厚付け仕上塗材</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・複層仕上塗材</td> <td>・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材S i ・複層塗材E ・複層塗材RE ・複層塗材RS ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水型複層塗材RE ・防水形複層塗材RS</td> <td>・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様 耐候性 ※対候形3種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック 防水形の増塗材 ※行う</td> </tr> <tr> <td>・可とう系改修用仕上塗材</td> <td>・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE</td> <td>・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状</td> </tr> <tr> <td>・マスチック塗材塗り</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>防火材料の指定が必要な場合 [4.2.2] (15.5.2) ※建築基準法に基づく認定を受けた材料とする。</p>	種類	呼び名	仕上げの形状等	・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材S i ・可とう形外装薄塗材S i ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E ・外装薄塗材S	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・砂壁状	・厚付け仕上塗材	・	・	・複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材S i ・複層塗材E ・複層塗材RE ・複層塗材RS ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水型複層塗材RE ・防水形複層塗材RS	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様 耐候性 ※対候形3種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック 防水形の増塗材 ※行う	・可とう系改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状	・マスチック塗材塗り	・	・
種類	呼び名	仕上げの形状等																	
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材S i ・可とう形外装薄塗材S i ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E ・外装薄塗材S	・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・砂壁状																	
・厚付け仕上塗材	・	・																	
・複層仕上塗材	・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE ・複層塗材S i ・複層塗材E ・複層塗材RE ・複層塗材RS ・防水形複層塗材CE ・防水形複層塗材E ・防水型複層塗材RE ・防水形複層塗材RS	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸模様 耐候性 ※対候形3種 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 樹脂 ※アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック 防水形の増塗材 ※行う																	
・可とう系改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E ・可とう形改修塗材RE ・可とう形改修塗材CE	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状																	
・マスチック塗材塗り	・	・																	

章	項目	特記事項																							
5 建具改修工事	1 改修工法の適用	[5. 1. 3] <table border="1"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>かぶせ工法</th> <th>撤去工法</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アルミニウム製建具</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※建具表による・図示</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・鋼製建具</td> <td>・外部</td> <td>・</td> <td>※建具表による・図示</td> </tr> <tr> <td>・内部</td> <td>・</td> <td>※建具表による・図示</td> </tr> <tr> <td>・鋼製軽量建具</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※建具表による・図示</td> </tr> <tr> <td>・ステンレス製建具</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※建具表による・図示</td> </tr> </tbody> </table>	建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所	・アルミニウム製建具	・	・	※建具表による・図示	・鋼製建具	・外部	・	※建具表による・図示	・内部	・	※建具表による・図示	・鋼製軽量建具	・	・	※建具表による・図示	・ステンレス製建具	・	・	※建具表による・図示
	建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所																					
	・アルミニウム製建具	・	・	※建具表による・図示																					
	・鋼製建具	・外部	・	※建具表による・図示																					
		・内部	・	※建具表による・図示																					
	・鋼製軽量建具	・	・	※建具表による・図示																					
	・ステンレス製建具	・	・	※建具表による・図示																					
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組(建具符号:) [5. 1. 5]																							
3 防犯建物部品	・適用する(図示) [5. 1. 6]																								
4 アルミニウム製建具	外部に面する建具 [5. 2. 2][表 5. 2. 1] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>耐風圧性</th> <th>機密性</th> <th>水密性</th> <th>枠見込み(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>S-4</td> <td>※A-3</td> <td>※W-4</td> <td>※70</td> <td rowspan="3">※図示</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>S-5</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>S-6</td> <td>A-4</td> <td>W-5</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> 表面処理 [5. 2. 4][表 5. 2. 2] ※B-1種 ・B-2種(・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー) 防音ドアセット ・防音サッシ ・適用する 遮音性の等級() 耐震ドアセット ・適用する 面内変形追随性の等級() 断熱ドアセット ・断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級() 屋内建具 [5. 2. 4][表 5. 2. 2] 表面処理 ※C-1種又はB-1種 ・C-2種又はB-2種(・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)	種別	耐風圧性	機密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所	・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示	・B種	S-5	・	・	・	・C種	S-6	A-4	W-5	100		
種別	耐風圧性	機密性	水密性	枠見込み(mm)	施工箇所																				
・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示																				
・B種	S-5	・	・	・																					
・C種	S-6	A-4	W-5	100																					
5 網戸	・防虫網 [5. 2. 3] 網の種類 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ※合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316) 形式 ※外部可動式 ・固定式 ・防鳥網 網の種類 ※ステンレス製(SUS304)線材(線径1.5mm 網目寸法15mm)																								
6 鋼製建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5. 3. 2][表 5. 3. 1] 耐風圧性の適用は建具表による 特定防火設備の戸 ・適用する [5. 3. 4] 片開き, 親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合の鋼板類の厚さ ※図示																								
7 鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5. 4. 2] 片開き, 親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合の鋼板類の厚さ ※図示																								
8 ステンレス建具	簡易気密型ドアセットの適用は特記による [5. 5. 2] 耐風圧性の適用は建具表による <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>鋼材の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋外</td> <td>※SUS304 又は SUS430J1L</td> </tr> <tr> <td>屋内</td> <td>※SUS430 ・ SUS304 又は SUS430J1L</td> </tr> </tbody> </table> 表面仕上げ ※HL程度 ・鏡面仕上げ [5. 5. 4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ(補強有り) [5. 5. 5] 特定防火設備の戸 ・適用する [表 5. 5. 1]	施工箇所	鋼材の種類	屋外	※SUS304 又は SUS430J1L	屋内	※SUS430 ・ SUS304 又は SUS430J1L																		
施工箇所	鋼材の種類																								
屋外	※SUS304 又は SUS430J1L																								
屋内	※SUS430 ・ SUS304 又は SUS430J1L																								

章	項目	特記事項							
5 建具改修工事	9 自動ドア開閉機構	<p style="text-align: right;">[5. 7. 2][表 5. 7. 1~3]</p> <p>※製造所標準製作規定寸法許容差による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開閉方法</th> <th>センサーの方式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ※スライディングドア ・スイングドア 性能 ・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2 ・SMD-1 ・SMD-2 </td> <td> ・マットスイッチ ・電子マットスイッチ ※光線スイッチ ・音波スイッチ ・熱線スイッチ ・光電スイッチ ・多機能便所スイッチ ・ </td> </tr> </tbody> </table> <p>・凍結防止措置(適用箇所は建具表による)</p>	開閉方法	センサーの方式	※スライディングドア ・スイングドア 性能 ・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2 ・SMD-1 ・SMD-2	・マットスイッチ ・電子マットスイッチ ※光線スイッチ ・音波スイッチ ・熱線スイッチ ・光電スイッチ ・多機能便所スイッチ ・			
	開閉方法	センサーの方式							
	※スライディングドア ・スイングドア 性能 ・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2 ・SMD-1 ・SMD-2	・マットスイッチ ・電子マットスイッチ ※光線スイッチ ・音波スイッチ ・熱線スイッチ ・光電スイッチ ・多機能便所スイッチ ・							
	10 自閉式上吊り引戸装置	<p>品質規格 ※改修標準仕様書 表 5. 8. 1 による [5. 8. 3][表 5. 8. 1] ・製造所標準仕様による</p>							
	11 木製建具	<p>かます戸の樹種 かまち () 鏡板 () (16. 6. 2) ふすまの上張り ※ 新鳥の子又はビニル紙程度(押入等の裏面は除く) (表 16. 6. 3) ・ 鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散 (16. 6. 2) ※規制対象外 ・ 第三種 縁仕上 ・ 塗り縁 ・ 生地縁(素地) ・ 生地縁(ウレタンクリヤー塗装) (表 16. 6. 9)</p>							
12 建具用金物	<p>マスターキー ※製作する ・ 製作しない 鍵箱 ・ 適用する [5. 6. 4]</p> <p>建具用金物 [5. 6. 2、3][表 5. 6. 1、2] 錠類はシリンダー箱錠(レバーハンドル)とする なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督員の承諾を受ける 吊金物 ・ 丁番 (内部建具については、軸を鉄芯としてもよい) ・ ピポットヒンジ</p>								
13 ガラス	<p>※建具表による [5. 12. 2]</p> <p>・ ガラスブロック積み (※図示) ガラスブロック 品質 JISA 5212 によるもの (5. 12. 5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>寸法(mm)</th> <th>色調</th> <th>パターン</th> <th>防火認定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> ※クリア ・ 熱線反射 ・ 乳白 ・ カラー () </td> <td></td> <td> ※無し ・ 有り </td> </tr> </tbody> </table>	寸法(mm)	色調	パターン	防火認定		※クリア ・ 熱線反射 ・ 乳白 ・ カラー ()		※無し ・ 有り
寸法(mm)	色調	パターン	防火認定						
	※クリア ・ 熱線反射 ・ 乳白 ・ カラー ()		※無し ・ 有り						
14 ガラス留め材及び溝	<p>ガラスの留め材 [5. 12. 2][表 5. 12. 1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>材種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>※シーリング材 ・ ガスケット (FIX 部はシーリング)</td> </tr> <tr> <td>鋼製及び鋼製軽量</td> <td>※シーリング材</td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>※シーリング材</td> </tr> </tbody> </table> <p>防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。</p> <p>板ガラスをはめ込む溝の大きさ [5. 12. 3] 改修標準仕様書 5. 12. 3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は(社)日本建築学会 JASS 17 ガラス工事「3. 1 納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督員に提出する</p>	建具の種類	材種	アルミニウム製	※シーリング材 ・ ガスケット (FIX 部はシーリング)	鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材	ステンレス製	※シーリング材
建具の種類	材種								
アルミニウム製	※シーリング材 ・ ガスケット (FIX 部はシーリング)								
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材								
ステンレス製	※シーリング材								

章	項目	特記事項										
5 建具改修工事	15 ガラス用フィルム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>用途による区分</th> <th>記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ガラス飛散防止フィルム</td> <td>※ GS-A・B</td> </tr> <tr> <td>・ 日射調整フィルム／ガラス飛散防止フィルム</td> <td>・ SC-A/GS-A・B ・ SC-B/GS-A・B ・</td> </tr> <tr> <td>・ ガラス貫通防止フィルム</td> <td>※ SF-A</td> </tr> <tr> <td>・ 日射調整フィルム／ガラス貫通防止フィルム</td> <td>・ SG-A/SF-A ・ SC-B/SF-A ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>品質 JIS A 5759 による</p>	用途による区分	記号	・ ガラス飛散防止フィルム	※ GS-A・B	・ 日射調整フィルム／ガラス飛散防止フィルム	・ SC-A/GS-A・B ・ SC-B/GS-A・B ・	・ ガラス貫通防止フィルム	※ SF-A	・ 日射調整フィルム／ガラス貫通防止フィルム	・ SG-A/SF-A ・ SC-B/SF-A ・
	用途による区分	記号										
	・ ガラス飛散防止フィルム	※ GS-A・B										
	・ 日射調整フィルム／ガラス飛散防止フィルム	・ SC-A/GS-A・B ・ SC-B/GS-A・B ・										
・ ガラス貫通防止フィルム	※ SF-A											
・ 日射調整フィルム／ガラス貫通防止フィルム	・ SG-A/SF-A ・ SC-B/SF-A ・											
16 重量シャッター	<p style="text-align: right;">[5.9.2][表5.9.1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>シャッターの種類</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 一般重量シャッター</td> <td>耐風圧強度 () N/m²</td> </tr> <tr> <td>・ 外壁用防火シャッター</td> <td>耐風圧強度 () N/m²</td> </tr> <tr> <td>・ 屋内用防火シャッター</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 屋内用防煙シャッター</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>開閉機能 ※ 上部電動式（手動併用） ・ 上部手動式</p> <p>危険防止機構 ※ 障害物感知装置（自動閉鎖型） [5.9.2] ・ シャッターの二段降下方式</p> <p>一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・設けない [5.9.2]</p>	シャッターの種類		・ 一般重量シャッター	耐風圧強度 () N/m ²	・ 外壁用防火シャッター	耐風圧強度 () N/m ²	・ 屋内用防火シャッター		・ 屋内用防煙シャッター		
シャッターの種類												
・ 一般重量シャッター	耐風圧強度 () N/m ²											
・ 外壁用防火シャッター	耐風圧強度 () N/m ²											
・ 屋内用防火シャッター												
・ 屋内用防煙シャッター												
17 軽量シャッター	<p>開閉形式 [5.10.2][表5.10.1] ※手動式 ・ 上部電動式（手動併用）</p> <p>スラット 材質 ※ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 及び鋼帯 [5.10.3] ・ 塗装溶融亜鉛 -5% アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯</p> <p>形状 ※ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 [5.10.4]</p> <p>ガイドレール等 [表5.10.2] ※鋼板製 ・ ステンレス製 SUS 304（厚さ 1.5mm）</p> <p>耐風圧強度()N/m²</p>											
18 オーバーヘッドドア	<p style="text-align: right;">[5.11.2~4][表5.11.1~2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>セクション材</th> <th>開閉方式</th> <th>収納形式</th> <th>ガイドレール</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ</td> <td>※バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式</td> <td>・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形</td> <td>・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 (SUS304)</td> </tr> </tbody> </table> <p>耐風圧性能()Pa</p>	セクション材	開閉方式	収納形式	ガイドレール	※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 (SUS304)			
セクション材	開閉方式	収納形式	ガイドレール									
※スチールタイプ ・ アルミニウムタイプ ・ ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式	・ スタンダード形 ・ ローヘッド形 ・ ハイリフト形 ・ バーチカル形	・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 (SUS304)									

章	項目	特記事項																				
6 内装改修工事	1 改修範囲	<p>既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3]</p> <p>※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示の範囲 <p>天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲</p> <p>※壁面より両面 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示の範囲 <p>天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修</p> <p>※既存のまま</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図示の範囲 																				
	2 既存床の撤去並びに下地補修	<p>ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ（接着剤とも） [6.2.2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下地モルタルとも（※ 図示の範囲 ・ 除去範囲の全て） <p>合成樹脂塗り床材の除去方法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒工法</p> <p>改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 ・</p>																				
	3 既存壁の撤去並びに下地補修	<p>間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2] [4.4.9]</p> <p>※ 図示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モルタル塗り（塗り厚 25mm を超える場合の補強 ※ 行う ・ 行わない） 																				
	4 木下地等	<p>木材の品質 [6.5.2] [表 6.5.2~3]</p> <p>※改修標準仕様書 6.5.2 による ・ 市販品</p> <p>間伐材等 ・ 使用する（使用箇所）</p> <p>現場搬入時の木材の含水率 ※A種 ・ B種</p> <p>樹種 ※ 改修標準仕様書 6.5.4による</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 代用樹種を適用しない箇所（） <p>保存処理木材を適用する箇所（） [6.5.2] [表 6.5.4]</p> <p>間伐材等：間伐材、林地残材又は小径木であること</p>																				
	5 集成材等	<p>[6.5.2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>強度等級・材面の品質 性能・使用環境樹種名・規格等</th> <th>間伐材等の 適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 構造用集積材</td> <td></td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ 構造用短板積層材</td> <td></td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ 造作用集積材</td> <td></td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ 化粧ばり造作用集成材</td> <td></td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 第三種</p> <p>間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する短材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。</p>	種別	施工箇所	強度等級・材面の品質 性能・使用環境樹種名・規格等	間伐材等の 適用	・ 構造用集積材		※図示	・	・ 構造用短板積層材		※図示	・	・ 造作用集積材		※図示	・	・ 化粧ばり造作用集成材		※図示	・
	種別	施工箇所	強度等級・材面の品質 性能・使用環境樹種名・規格等	間伐材等の 適用																		
・ 構造用集積材		※図示	・																			
・ 構造用短板積層材		※図示	・																			
・ 造作用集積材		※図示	・																			
・ 化粧ばり造作用集成材		※図示	・																			
6 接着剤	<p>接着に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 [6.5.2]</p> <p>※木工事に使用する接着剤</p> <p>ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤（以下、「ユリア樹脂等」という。）を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量</p> <p>※ 規制対象外 ・ 第三種</p> <p>※壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤 [6.8.2] [6.14.2]</p> <p>壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量</p> <p>※ 規制対象外 ・ 第三種</p>																					

章	項目	特記事項																																								
6 内装改修工事	7 防腐・防蟻処理	防腐処理 ※ 行う (※ 図示) [6. 5. 2] 種類、品質 () 防蟻処理 ・ 行う (※ 図示) 種類、品質 () 防虫処理 ・ ラワン材を使用する場合は、「広葉樹製材の日本農林規格」の保存処理 K1 とする																																								
	8 床板張り用合板及びその他の合板	[表 6. 5. 11] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>接着の程度</th> <th>表板の樹種名・品質等級・性能等</th> <th>防虫処理</th> <th>その他の処理</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・普通合板</td> <td></td> <td></td> <td>※1類 ・2類</td> <td>※図示</td> <td>・あり ・なし</td> <td>難燃処理 防災処理</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・構造用合板</td> <td></td> <td></td> <td>・特類 ※1類</td> <td>※図示</td> <td>・あり ・なし</td> <td>難燃処理 防災処理</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・天然木化粧合板</td> <td></td> <td></td> <td>・1類 ・2類</td> <td>※図示</td> <td>・あり ・なし</td> <td>難燃処理 防災処理</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板</td> <td></td> <td></td> <td>・1類 ・2類</td> <td>※図示</td> <td>・あり ・なし</td> <td>難燃処理 防災処理</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。</p>	種別	施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	表板の樹種名・品質等級・性能等	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用	・普通合板			※1類 ・2類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・	・構造用合板			・特類 ※1類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・	・天然木化粧合板			・1類 ・2類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・	・特殊加工化粧合板			・1類 ・2類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・
	種別	施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	表板の樹種名・品質等級・性能等	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用																																		
	・普通合板			※1類 ・2類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・																																		
・構造用合板			・特類 ※1類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・																																			
・天然木化粧合板			・1類 ・2類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・																																			
・特殊加工化粧合板			・1類 ・2類	※図示	・あり ・なし	難燃処理 防災処理	・																																			
9 軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 [6. 6. 2][表 6. 6. 1] 屋外 (・19 形 ※ 25 形) 屋内 (※ 19 ・ 25 形) 既存の埋込インサート ・ 使用する ・ 使用しない [6. 6. 3~4] あと施工アンカー材料 ・ 金属系アンカー ※ 接着系アンカー [6. 6. 4] 穿孔前の埋設配管・配線および鉄筋調査 範囲 ・ 図示 ※ あと施工アンカー施工箇所全て 方法 ※ 位置の墨出しを行い、穿孔前に電磁波レーダー法又は電磁波誘導法による埋設配管・配線等および既存鉄筋の調査を行う。 穿孔機械は金属検知により電源供給が停止できる付属装置等を使用する あと施工アンカーの引抜き試験 ・ 行う ・ 行わない ※天井ふところ 1. 5m 以上の場合は吊りボルトの補強を行う ※天井ふところ 3. 0m を超える場合の補強 ※ 図示 ・ 屋外軒天井及びビィー天井等における対風圧性を考慮した補強 ※図示 耐震性を考慮した崩落対策を ※ 行う ・ 行わない (14. 4. 4) 適用基準等 ※ 国土交通省技術的助言 国住指第 357 号 (平成 13 年 6 月 1 日) ※ 国土交通省技術的助言 国住指第 2402 号 (平成 15 年 10 月 15 日) ※ 地震による落下物や転倒物から子供たちを守るために ～学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック～ (文部科学省) 補強金物によりクリップの補強を ※ 行う ・ 行わない																																									
10 軽量鉄骨壁下地	スタッドの高さが 5m を超える場合 ※ 図示 ・ [6. 7. 3][表 6. 7. 1]																																									
11 床用塗料塗り	材料 ウレタン樹脂系塗料 (※標準色 ・) 仕上種別 ※平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ 塗布量 プライマー塗りのうえ主剤2回塗りとし、総塗布量は 0. 5kg/m ² 以上とする																																									
12 防塵用塗料塗り	材料 水性アクリル系塗料 (※標準色 ・) 仕上種別 コーティング (ローラー刷毛塗り) 塗布量 主剤2回塗りとし、総塗布量は 0. 25kg/m ² 以上とする																																									

章	項目	特記事項			
6 内装 改修 工事	13 ビニル床シート張り	[6.8.2]			
		種類	JISの記号	色柄	厚さ(mm)
		※ 発泡層のないもの	※ FS (複層ビニル床シート) [旧:NC (ビニル床シート)]	※ 無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物	※2.5 ・
		・ 発泡層のあるもの		・ 無地 ・ 柄物 ・ 無地 ・ 柄物	
		工法 ※ 熱溶接工法 ・ 突付け(施工箇所:)			[6.8.3]
	14 ビニル床タイル張り	[6.8.2]			
		種類	JISの記号	色柄	厚さ(mm)
		※ 接着系	※ KT(コンポジションビニル床タイル(半硬質)) CT3(コンポジションビニル床タイル(軟質))	※無地 ・ 柄物	※ 2.0
			FT(複層ビニル床タイル) [旧:HT(ホジニアスビニル床タイル)]	・ 無地 ・ 柄物	
		・ 置敷系	・	・ 無地 ・ 柄物 ・ 無地 ・ 柄物	
15 特殊機能床材	[6.8.2]				
	種類	特殊機能	色柄	厚さ(mm)	
	※ KT(コンポジションビニル床タイル) [旧:CT(コンポジションビニル床タイル(半硬質))]	帯電防止	※ 無地 ・ 柄物	※ 2.0	
	・ FT(複層ビニル床タイル) [旧:HT(ホジニアスビニル床タイル)]	帯電防止	・ 無地 ・ 柄物	※ 4.0 又は4.5	
		・ 帯電防止 ・ 耐動荷重 ・ 耐薬品	・ 無地 ・ 柄物	・	
	性能 帯電防止 帯電防止性能評価値(JIS A 1455) 1.2以上~3.2未満 または体積電気抵抗値(JIS A 1454) $1 \times 10^7 \sim 1 \times 10^{10} \Omega$ 程度 耐動荷重 ・ 耐薬品 ・				
16 視覚障害者用床タイル(誘導用及び注意喚起用床材)	ブロックパターンは JIS T 9251 による 色彩は黄色を原則とする 屋 内 ※ 塩化ビニル製 ・ 磁気又はせっ器質タイル(※ 300 ・) ・ レジンコンクリート製 屋 外 ※ レジンコンクリート製 ・ 磁器又はせっ器質タイル (※300 ・)			[6.8.2]	
17 ビニル幅木	高さ(mm) ※60 ・75 ・100	厚さ(mm) ※1.5以上	[6.8.2]		
18 合成樹脂塗床	[6.10.3][表6.10.3~7]				
	種別	仕上げの種類			
	・ 弾性ウレタン樹脂系塗床材	※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ			
	・ エポキシ樹脂系塗床材	※ 薄膜流し展べ仕上げ ・ 厚膜流し展べ仕上げ(※ 平滑 ・ 防滑) ・ 樹脂モルタル仕上げ(※ 平滑 ・ 防滑) ・ 防滑仕上げ			
	ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種				

章	項目	特記事項																															
6 内装 改修 工事	19 フローリング張り	[6.11.2~7][表6.11.1~4] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>材種</th> <th>工法</th> <th>仕上げ塗装等</th> <th>間伐材等の適用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※天然木化粧複合フローリング ・単層フローリング</td> <td>※なら ・ひのき</td> <td>※釘止め工法 (C種) ・</td> <td>※塗装品 ・無塗装品</td> <td>・ ・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>ホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 間伐材等：間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。</p>	種別	材種	工法	仕上げ塗装等	間伐材等の適用	※天然木化粧複合フローリング ・単層フローリング	※なら ・ひのき	※釘止め工法 (C種) ・	※塗装品 ・無塗装品	・ ・		・	・	・	・		・	・	・	・											
	種別	材種	工法	仕上げ塗装等	間伐材等の適用																												
	※天然木化粧複合フローリング ・単層フローリング	※なら ・ひのき	※釘止め工法 (C種) ・	※塗装品 ・無塗装品	・ ・																												
		・	・	・	・																												
		・	・	・	・																												
20 畳敷き	[6.12.2、3][表6.12.1] <table border="1"> <thead> <tr> <th>下地の種類</th> <th>畳の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>改修標準仕様書 表6.5.9による床組</td> <td>・ B種 ・</td> </tr> <tr> <td>ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)</td> <td>※ C種 ・</td> </tr> </tbody> </table> 畳表及び畳床は VOC 含有量が少ないものとする	下地の種類	畳の種類	改修標準仕様書 表6.5.9による床組	・ B種 ・	ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)	※ C種 ・																										
下地の種類	畳の種類																																
改修標準仕様書 表6.5.9による床組	・ B種 ・																																
ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)	※ C種 ・																																
21 ポリスチレンフォーム床下地材	ノンフロンのもの 畳下地 厚さ(mm) ※ 40 ・ 65 ・ 80 (不燃) フローリング類 厚さ(mm) ※ 80 ・ 95 (不燃)																																
22 カーペット敷き	・ 織じゅうたん [6.9.2~3][表6.9.1~2] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>パイル形状</th> <th>色柄等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ A種</td> <td>・ カットパイル</td> <td>※ 無地</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ B種</td> <td>・ ループパイル</td> <td>・ 柄物(標準品)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ C種</td> <td>・ カット、ループパイル併用</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 帯電性 ※人体耐電圧 3kV 以下 ・ タフテッドカーペット [6.9.2~3][表6.9.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th>パイル形状</th> <th>パイル長(mm)</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ カットパイル</td> <td>※ 5~7 ・</td> <td>※ 全面接着工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ループパイル</td> <td>※ 4~6 ・</td> <td>・ グリッパー工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ カット、ループ併用</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 帯電性 ※人体帯電圧 3kV 以下	種別	パイル形状	色柄等	備考	・ A種	・ カットパイル	※ 無地		・ B種	・ ループパイル	・ 柄物(標準品)		・ C種	・ カット、ループパイル併用	・		パイル形状	パイル長(mm)	工法	備考	・ カットパイル	※ 5~7 ・	※ 全面接着工法		・ ループパイル	※ 4~6 ・	・ グリッパー工法		・ カット、ループ併用	・		
種別	パイル形状	色柄等	備考																														
・ A種	・ カットパイル	※ 無地																															
・ B種	・ ループパイル	・ 柄物(標準品)																															
・ C種	・ カット、ループパイル併用	・																															
パイル形状	パイル長(mm)	工法	備考																														
・ カットパイル	※ 5~7 ・	※ 全面接着工法																															
・ ループパイル	※ 4~6 ・	・ グリッパー工法																															
・ カット、ループ併用	・																																
	・ タイルカーペット [6.9.2~3][表6.9.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th>パイル形状</th> <th>種類</th> <th>種類</th> <th>総厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ ループパイル</td> <td>※ 第一種 ・ 第二種</td> <td>※ 500×500 ・</td> <td>※ 6.5 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ カットパイプ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ カット、ループ併用</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	パイル形状	種類	種類	総厚さ(mm)	備考	※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・		・ カットパイプ					・ カット、ループ併用																
パイル形状	種類	種類	総厚さ(mm)	備考																													
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・																														
・ カットパイプ																																	
・ カット、ループ併用																																	

章	項目	特記事項																																																				
6 内装 改修 工事	23 せっこうボードその 他のボード張り	[6.13.2][表6.13.1]																																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)、規格等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・硬質木毛セメント板</td> <td>・ 15 ・ 20 ・ 25 ・</td> </tr> <tr> <td>・普通木毛セメント板</td> <td>・ 15 ・ 20 ・ 25 ・</td> </tr> <tr> <td>・硬質木片セメント板</td> <td>・ 15 ・ 20 ・ 25 ・</td> </tr> <tr> <td>・普通木片セメント板</td> <td>・ 30 ・</td> </tr> <tr> <td>・けい酸カルシウム板</td> <td>※ 0.8FK タイプ2 (無石綿) (・6・8・) ・化粧ボード 0.8FK タイプ2 (無石綿) (・6 ・)</td> </tr> <tr> <td>・フレキシブル板</td> <td>・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 8</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール化粧吸音板</td> <td>※ フラットタイプ (※ 9(不燃) ・12 ・) ・ 凹凸タイプ (※ 12(不燃) ・ 15 ・ 19 ・)</td> </tr> <tr> <td>・せっこうボード</td> <td>※ 12.5(不燃) ・9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・不燃積層せっこう ボード</td> <td>9.5(不燃) ・化粧無 (下地張り用) ・化粧有 (トラバーチン模様)</td> </tr> <tr> <td>・シーリングせっこう ボード</td> <td>・12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・強化せっこうボード</td> <td>・12.5 (不燃) ・15.0 (不燃)</td> </tr> <tr> <td>・せっこうラスボード</td> <td>9.5</td> </tr> <tr> <td>・化粧石こうボード</td> <td>・12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・化粧せっこうボード(木目)</td> <td>12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (※ 柾目 ・板目) 専用下地材付き</td> </tr> <tr> <td>・化粧せっこう吸音ボード</td> <td>・9.5</td> </tr> <tr> <td>・普通合板 (難熱処理)</td> <td>・ 生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・ 不透明塗料塗り (しな合板程度)</td> </tr> <tr> <td>・天然木化粧合板</td> <td>※4.2 ・ (・チーク ・タモ ・)</td> </tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板</td> <td>※4.0 ・ (・)</td> </tr> <tr> <td>・メラミン樹脂化粧板</td> <td>JIS K 6903 による 厚さ ※1.2</td> </tr> <tr> <td>・ミディアムデンシティファイバー ボード</td> <td>・ 3 ・7 ・9 ・12 ・</td> </tr> <tr> <td>・単板張りパーティクルボード</td> <td>・ 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS ・ 10 ・12 ・15 ・18</td> </tr> <tr> <td>・ハードボード (素地)</td> <td>・ 素地 ・ RN-HB ・ RS-HB ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7</td> </tr> <tr> <td>・インシュレーションボード</td> <td>・ T-I B ・ A-I B ・ S-I B ・9 ・12 ・15 ・18 ・</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール吸音ボード 1号</td> <td>※ 25 ・</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール吸音ボード 32K</td> <td>※ 25 ・</td> </tr> </tbody> </table>	種類	厚さ (mm)、規格等	・硬質木毛セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・	・普通木毛セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・	・硬質木片セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・	・普通木片セメント板	・ 30 ・	・けい酸カルシウム板	※ 0.8FK タイプ2 (無石綿) (・6・8・) ・化粧ボード 0.8FK タイプ2 (無石綿) (・6 ・)	・フレキシブル板	・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 8	・ロックウール化粧吸音板	※ フラットタイプ (※ 9(不燃) ・12 ・) ・ 凹凸タイプ (※ 12(不燃) ・ 15 ・ 19 ・)	・せっこうボード	※ 12.5(不燃) ・9.5(準不燃)	・不燃積層せっこう ボード	9.5(不燃) ・化粧無 (下地張り用) ・化粧有 (トラバーチン模様)	・シーリングせっこう ボード	・12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)	・強化せっこうボード	・12.5 (不燃) ・15.0 (不燃)	・せっこうラスボード	9.5	・化粧石こうボード	・12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)	・化粧せっこうボード(木目)	12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (※ 柾目 ・板目) 専用下地材付き	・化粧せっこう吸音ボード	・9.5	・普通合板 (難熱処理)	・ 生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・ 不透明塗料塗り (しな合板程度)	・天然木化粧合板	※4.2 ・ (・チーク ・タモ ・)	・特殊加工化粧合板	※4.0 ・ (・)	・メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による 厚さ ※1.2	・ミディアムデンシティファイバー ボード	・ 3 ・7 ・9 ・12 ・	・単板張りパーティクルボード	・ 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS ・ 10 ・12 ・15 ・18	・ハードボード (素地)	・ 素地 ・ RN-HB ・ RS-HB ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7	・インシュレーションボード	・ T-I B ・ A-I B ・ S-I B ・9 ・12 ・15 ・18 ・	・ロックウール吸音ボード 1号	※ 25 ・	・グラスウール吸音ボード 32K	※ 25 ・
		種類	厚さ (mm)、規格等																																																			
		・硬質木毛セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・																																																			
		・普通木毛セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・																																																			
		・硬質木片セメント板	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・																																																			
		・普通木片セメント板	・ 30 ・																																																			
		・けい酸カルシウム板	※ 0.8FK タイプ2 (無石綿) (・6・8・) ・化粧ボード 0.8FK タイプ2 (無石綿) (・6 ・)																																																			
		・フレキシブル板	・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 8																																																			
		・ロックウール化粧吸音板	※ フラットタイプ (※ 9(不燃) ・12 ・) ・ 凹凸タイプ (※ 12(不燃) ・ 15 ・ 19 ・)																																																			
		・せっこうボード	※ 12.5(不燃) ・9.5(準不燃)																																																			
		・不燃積層せっこう ボード	9.5(不燃) ・化粧無 (下地張り用) ・化粧有 (トラバーチン模様)																																																			
		・シーリングせっこう ボード	・12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)																																																			
		・強化せっこうボード	・12.5 (不燃) ・15.0 (不燃)																																																			
		・せっこうラスボード	9.5																																																			
		・化粧石こうボード	・12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)																																																			
		・化粧せっこうボード(木目)	12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (※ 柾目 ・板目) 専用下地材付き																																																			
		・化粧せっこう吸音ボード	・9.5																																																			
		・普通合板 (難熱処理)	・ 生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度) ・ 不透明塗料塗り (しな合板程度)																																																			
		・天然木化粧合板	※4.2 ・ (・チーク ・タモ ・)																																																			
		・特殊加工化粧合板	※4.0 ・ (・)																																																			
		・メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による 厚さ ※1.2																																																			
		・ミディアムデンシティファイバー ボード	・ 3 ・7 ・9 ・12 ・																																																			
		・単板張りパーティクルボード	・ 無研磨板 VN ・ 研磨板 VS ・ 10 ・12 ・15 ・18																																																			
		・ハードボード (素地)	・ 素地 ・ RN-HB ・ RS-HB ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7																																																			
		・インシュレーションボード	・ T-I B ・ A-I B ・ S-I B ・9 ・12 ・15 ・18 ・																																																			
		・ロックウール吸音ボード 1号	※ 25 ・																																																			
・グラスウール吸音ボード 32K	※ 25 ・																																																					
合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量																																																						
※ 規制対象外 ・ 第三種																																																						
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材																																																						
・ 適用する(・シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド)																																																						

章	項目	特記事項																																																																																						
6 内装改修工事	24 壁紙張り	<p style="text-align: right;">[6. 14. 2]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="5">壁紙の種類</th> <th rowspan="2">防火性能</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>紙</th> <th>繊維 (織物)</th> <th>プラ (ビニル)</th> <th>その他 (化学繊維)</th> <th>無機質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃・準不燃・難燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃・準不燃・難燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃・準不燃・難燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃・準不燃・難燃</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>素地ごしらえ [6. 14. 3][表 7. 2. 4][表 7. 2. 7] モルタル、プaster面 ※ RB種 ・ RA種(施工箇所:) せっこうボード面 ※ RB種 ・ RA種(施工箇所:) 壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種</p>	施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考	紙	繊維 (織物)	プラ (ビニル)	その他 (化学繊維)	無機質		・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃			・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃			・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃			・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃																																										
	施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考																																																																																
		紙	繊維 (織物)	プラ (ビニル)	その他 (化学繊維)	無機質																																																																																		
	・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃																																																																																		
	・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃																																																																																		
	・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃																																																																																		
	・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃																																																																																		
25	モルタル塗り材料	<p style="text-align: right;">[6. 15. 3]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>全固形分 (%)</th> <th>吸水性 (g)</th> <th>接着強度 (N/mm²)</th> <th>界面破断率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>表示値± 1. 0以内</td> <td>30分間で1g以下</td> <td>1. 0以上</td> <td>50以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 防水剤 (防水モルタル塗りの混入剤) 防水剤の種類 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤 (JIS A 1404 による試験)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>混合割合</th> <th>凝結時間</th> <th>曲げ及び圧縮強度比</th> <th>吸水比</th> <th>透水比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セメント重量の5%以下</td> <td>JIS R 5201 の試験8において始発 1時間以上 終結 10時間以内</td> <td>70%以上</td> <td>95%以上</td> <td>80%以下 294. 0 KPa/h</td> </tr> </tbody> </table> <p>膨張性のひび割れおよびそりがなく、JIS R 5201 の試験9 既製目地材 ※ 適用しない ・ 適用する</p>	全固形分 (%)	吸水性 (g)	接着強度 (N/mm ²)	界面破断率 (%)	表示値± 1. 0以内	30分間で1g以下	1. 0以上	50以下	混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比	セメント重量の5%以下	JIS R 5201 の試験8において始発 1時間以上 終結 10時間以内	70%以上	95%以上	80%以下 294. 0 KPa/h																																																																				
全固形分 (%)	吸水性 (g)	接着強度 (N/mm ²)	界面破断率 (%)																																																																																					
表示値± 1. 0以内	30分間で1g以下	1. 0以上	50以下																																																																																					
混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比																																																																																				
セメント重量の5%以下	JIS R 5201 の試験8において始発 1時間以上 終結 10時間以内	70%以上	95%以上	80%以下 294. 0 KPa/h																																																																																				
26	陶磁器質タイル張り	<p style="text-align: right;">[6. 16. 3]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">主な用途 による区分 施工箇所</th> <th rowspan="2">形状・寸法 (mm)</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわ薬</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材の 適用</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> <th>施釉</th> <th>無釉</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>役物：標準的な曲がりの役物は一体形成とする タイルの見本焼き ※ 行わない ・ 行う 内装タイル ※ 壁タイル接着剤張り ・ 積上げ張り</p>	主な用途 による区分 施工箇所	形状・寸法 (mm)	吸水率による区分			うわ薬		役物		色		再生材の 適用	耐凍害性		備考	I類	II類	III類	施釉	無釉	有	無	標準	特注	有	無			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
主な用途 による区分 施工箇所	形状・寸法 (mm)	吸水率による区分			うわ薬		役物		色		再生材の 適用	耐凍害性			備考																																																																									
		I類	II類	III類	施釉	無釉	有	無	標準	特注		有	無																																																																											
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・																																																																											
27	断熱材	<p style="text-align: right;">(19. 9. 2~3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>施工箇所</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>品質等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ 押出法 ポリスチレン フォーム 保温材</td> <td>※ 2種b</td> <td>※ 一般部 ・</td> <td>※ 25 ・</td> </tr> <tr> <td>※ 3種b (スキン層付)</td> <td>・ 接地部分 ・</td> <td>※ 25 ・</td> </tr> <tr> <td>・ フェノールフ ォーム保温材</td> <td>※ A種</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 現場発泡 断熱材</td> <td rowspan="2">※ A種1</td> <td>※断熱材補修部 分</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ 一般部 ・</td> <td>※ 25 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>ロックウール、グラスウール、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材 のホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種</p>	種類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等	・ 押出法 ポリスチレン フォーム 保温材	※ 2種b	※ 一般部 ・	※ 25 ・	※ 3種b (スキン層付)	・ 接地部分 ・	※ 25 ・	・ フェノールフ ォーム保温材	※ A種	・	・	・ 現場発泡 断熱材	※ A種1	※断熱材補修部 分	・	・ 一般部 ・	※ 25 ・																																																																	
種類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等																																																																																					
・ 押出法 ポリスチレン フォーム 保温材	※ 2種b	※ 一般部 ・	※ 25 ・																																																																																					
	※ 3種b (スキン層付)	・ 接地部分 ・	※ 25 ・																																																																																					
・ フェノールフ ォーム保温材	※ A種	・	・																																																																																					
・ 現場発泡 断熱材	※ A種1	※断熱材補修部 分	・																																																																																					
		・ 一般部 ・	※ 25 ・																																																																																					

章	項目	特記事項																											
6 内装改修工事	28 浴室天井材	<p>市販品</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>表面仕上げ</th> <th>性能</th> <th>幅 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">※アルミニウム製</td> <td>※焼付け塗装品</td> <td rowspan="2">準不燃品</td> <td>※ 200</td> <td rowspan="2">回り縁は樋付きとして、製造所の標準品とする。</td> </tr> <tr> <td>・アルマイト処理品</td> <td>・ 100</td> </tr> </tbody> </table>	材質	表面仕上げ	性能	幅 (mm)	備考	※アルミニウム製	※焼付け塗装品	準不燃品	※ 200	回り縁は樋付きとして、製造所の標準品とする。	・アルマイト処理品	・ 100															
	材質	表面仕上げ	性能	幅 (mm)	備考																								
	※アルミニウム製	※焼付け塗装品	準不燃品	※ 200	回り縁は樋付きとして、製造所の標準品とする。																								
		・アルマイト処理品		・ 100																									
	29 フリーアクセスフロア	<p>(20.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>構法</th> <th>仕上高 (mm)</th> <th>適用地震時水平力</th> <th>耐荷重性能</th> <th>表面仕上げ材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・パネル構法 ・溝構法</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3,000N ・5,000N</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・パネル構法 ・溝構法</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3,000N ・5,000N</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・パネル構法 ・溝構法</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3,000N ・5,000N</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>耐震性能 5000N、高さ 300 以上については、平成元年建設省告示第 1322 号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。</p> <p>表面仕上げ材の品質・規格等は、各内装工事による スロープ及ボーダー ※製造所の標準仕様 ・ 図示 コンセント等の取付け対応 ※製造所の標準仕様 (コンセント本体は別途設備工事) コンセントの箇所数は図示</p> <p>配線用取り出しパネル 配線取り出し開口：パネル 1 枚につき 40mm×80mm 程度の開口 1ヶ箇所以上 フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 20~30 パーセント ・</p> <p>空調用吹き出しパネル ※ 無し ・ 有り(※ 固定式 ・可変式 :施工箇所は図示)</p>	施工箇所	構法	仕上高 (mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材	備考		・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット			・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット			・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
施工箇所	構法	仕上高 (mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材	備考																							
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット																								
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット																								
	・パネル構法 ・溝構法		・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット																								
30 可動間仕切	<p>(20.2.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>構造形式</th> <th>パネル部の総厚さ (mm)</th> <th>表面材種厚さ (mm)</th> <th>表面仕上げ</th> <th>遮音性能</th> <th>防火性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スタッド式 ・スタッドパネル式 ・パネル式</td> <td>・</td> <td>※鋼板 (※ 0.6 ・0.8) ・</td> <td>※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・</td> <td>・あり () ・なし</td> <td>・あり () ・なし</td> </tr> </tbody> </table>	構造形式	パネル部の総厚さ (mm)	表面材種厚さ (mm)	表面仕上げ	遮音性能	防火性能	・スタッド式 ・スタッドパネル式 ・パネル式	・	※鋼板 (※ 0.6 ・0.8) ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・	・あり () ・なし	・あり () ・なし																
構造形式	パネル部の総厚さ (mm)	表面材種厚さ (mm)	表面仕上げ	遮音性能	防火性能																								
・スタッド式 ・スタッドパネル式 ・パネル式	・	※鋼板 (※ 0.6 ・0.8) ・	※メラミン樹脂又はアクリル樹脂焼付け ・	・あり () ・なし	・あり () ・なし																								
31 移動間仕切	<p>(20.2.4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>遮音性能</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面材</th> <th>表面仕上げ</th> <th>操作方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・一級タイプ</td> <td></td> <td>※鋼板 ・</td> <td>・焼付け塗装 ・壁紙張り</td> <td>・手動式 ・ 電動式 ・部分電動式</td> </tr> <tr> <td>・遮音タイプ (36db 以上)</td> <td></td> <td>※鋼板</td> <td>・焼付け塗装 ・壁紙張り</td> <td>・手動式 ・ 電動式 ・部分電動式</td> </tr> </tbody> </table> <p>表面仕上げの壁紙張りの品質は 24 壁紙張りによる 遮音性能は JIS A 6512 の遮音試験に準拠する</p>	遮音性能	厚さ (mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法	・一級タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・ 電動式 ・部分電動式	・遮音タイプ (36db 以上)		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・ 電動式 ・部分電動式													
遮音性能	厚さ (mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法																									
・一級タイプ		※鋼板 ・	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・ 電動式 ・部分電動式																									
・遮音タイプ (36db 以上)		※鋼板	・焼付け塗装 ・壁紙張り	・手動式 ・ 電動式 ・部分電動式																									
32 トイレブース	<p>(20.2.5)</p> <p>表面仕上げ材 ・ メラミン樹脂系化粧板 (標準色 アルミ製コーナーエッジ付き) ・ ポリエステル樹脂系化粧板</p> <p>足形状 ・ 幅木型 ・ 足金物型</p>																												
33 階段滑り止め	<p>(20.2.5)</p> <p>材 種 ステンレス SUS 304 形 状 ビニルタイヤ入り 両端フラットエンド ※有り (・ステンレス製 ※ ビニル製) ・無し 幅(mm) 約 35 取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法</p>																												

章	項目	特記事項																																								
6 内装改修工事	34 階段手すり	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 集成材クリアラッカー仕上げ (市販品 径 約 45mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ビニル製ハンドレール (幅 約 50mm)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	施工箇所	※ 集成材クリアラッカー仕上げ (市販品 径 約 45mm)		・ ビニル製ハンドレール (幅 約 50mm)																																			
	種別	施工箇所																																								
	※ 集成材クリアラッカー仕上げ (市販品 径 約 45mm)																																									
	・ ビニル製ハンドレール (幅 約 50mm)																																									
	35 黒板及び ホワイトボード	<p style="text-align: right;">(20. 2. 8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>色彩</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 黒板</td> <td>※ 焼付け</td> <td></td> <td>※ 緑 ・ 黒</td> <td>※ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付引分</td> </tr> <tr> <td>・ ホワイト ボード</td> <td>※ ほうろう</td> <td></td> <td>※ 白</td> <td>※ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付引分</td> </tr> </tbody> </table>	種類		寸法 (mm)	色彩	備考	・ 黒板	※ 焼付け		※ 緑 ・ 黒	※ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付引分	・ ホワイト ボード	※ ほうろう		※ 白	※ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付引分																									
	種類		寸法 (mm)	色彩	備考																																					
	・ 黒板	※ 焼付け		※ 緑 ・ 黒	※ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付引分																																					
	・ ホワイト ボード	※ ほうろう		※ 白	※ 平面 ・ 曲面 ・ スクリーン付引分																																					
	36 表示	<p>衝突防止表示 ※ 図示 (市販品 ※ ステンレス製 径約 30mm ・) (20. 2. 10)</p> <p>(※ 両面 ・ 片面)</p> <p>・ 無し</p> <p>表示標識 案内用図記号については JIS Z 8210 による 誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とする。 (法令に基づく表示については、法に適合するものとする) 製造所 監督員の承諾する製造所</p>																																								
	37 ブラインド	<p>・ 既存再使用する (養成方法:) [2. 3. 1] [5. 1. 6]</p> <p>・ 新設する (20. 2. 12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形式</th> <th>種類</th> <th>スラットの材質</th> <th>スラットの幅 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 横型</td> <td>※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式</td> <td>※ アルミニウム合金製 ・</td> <td>※ 25</td> </tr> <tr> <td>・ 縦型</td> <td>・ 1本操作コード ※ 2本操作コード</td> <td>・ アルミスラット ・ クロススラット</td> <td>・ 80 ・ 100</td> </tr> </tbody> </table>	形式	種類	スラットの材質	スラットの幅 (mm)	※ 横型	※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製 ・	※ 25	・ 縦型	・ 1本操作コード ※ 2本操作コード	・ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100																												
形式	種類	スラットの材質	スラットの幅 (mm)																																							
※ 横型	※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製 ・	※ 25																																							
・ 縦型	・ 1本操作コード ※ 2本操作コード	・ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100																																							
38 ロールスクリーン	<p>防災性能 ※ 有り</p> <p>製造所 性能確認できる資料を監督員に提出する (20. 2. 13)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">装置</th> <th rowspan="2">性能 (防火性能)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>電動</th> <th>手引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	装置		性能 (防火性能)	備考	電動	手引	・	・	・			・	・	・			・	・	・																					
施工箇所	装置		性能 (防火性能)	備考																																						
	電動	手引																																								
・	・	・																																								
・	・	・																																								
・	・	・																																								
39 カーテン	<p>・ 既存再使用する (養成方法:) [2. 3. 1] [5. 1. 6]</p> <p>・ 新設する (20. 2. 14)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">形 式</th> <th colspan="3">装 置</th> <th rowspan="2">ひだの種類</th> <th rowspan="2">性能</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>片引</th> <th>引分</th> <th>電動</th> <th>ひも引</th> <th>手引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	形 式		装 置			ひだの種類	性能	備考	片引	引分	電動	ひも引	手引	・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・				・	・	・	・	・	・			
施工箇所	形 式		装 置			ひだの種類	性能				備考																															
	片引	引分	電動	ひも引	手引																																					
・	・	・	・	・	・																																					
・	・	・	・	・	・																																					
・	・	・	・	・	・																																					
40 カーテンレール	<p>・ 既存再使用する [5. 1. 6]</p> <p>・ 新設する (20. 2. 14)</p> <p>材 種 ※ アルミニウム製 ・ ステンレス製</p>																																									
41 ブラインドボックス 及びカーテンボック ス	<p>・ 既存再使用する [5. 1. 6]</p> <p>・ 新設する</p> <p>・ 市販品 (アルミニウム製 押出し型材)</p> <p>溝幅×深さ (mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ※ 120×150 ・ 150×80 ・</p> <p>色彩 ※ B-1 ・ B-2 (※ グラウ系 ・ ブラック ・ スチカラー)</p> <p>・ 図示</p>																																									
42 天井点検口	材質 アルミニウム製 (※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ)																																									
43 床点検口	材質 ・ アルミニウム製 (受け枠 ※ アルミ製 ・ ステンレス製)																																									

章	項目	特記事項																							
6 内装 改修 工事	44 鋼製書架及び物品棚	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>規格等</th> <th>JISによる種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 鋼製書架</td> <td rowspan="2">JIS S 1039 の規格による</td> <td>・ 1種 ・ 2種 ・ 3種</td> </tr> <tr> <td>・ 鋼製物品棚</td> <td>・ 4種 ・ 5種 ・ 6種</td> </tr> </tbody> </table>	種類	規格等	JISによる種類	・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種	・ 鋼製物品棚	・ 4種 ・ 5種 ・ 6種															
	種類	規格等	JISによる種類																						
	・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種																						
	・ 鋼製物品棚		・ 4種 ・ 5種 ・ 6種																						
	45 くつふきマット	市販品 材質 ・ 塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製受枠) ・ ビニル製 (ステンレス製受枠) ・ 硬質アルミニウム製 (受枠とも) ・ ステンレス製 (受枠とも)																							
	46 流し台ユニット	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寸法 (L= mm)</th> <th>適用内容</th> <th>規格・品質等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 流し台</td> <td>※1200 ・ 1500 ・ 1800</td> <td>トラップ付き</td> <td rowspan="2">※ 優良住宅部品 (セクショナルキッチンI型)</td> </tr> <tr> <td>・ コンロ</td> <td>※600 ・ 700</td> <td>バックガード※有り</td> </tr> <tr> <td>・ つり戸棚</td> <td>※120 ・ 900 ・ 600</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 水切り棚</td> <td>※1200 ・ 900</td> <td>ステンレス製※1 段式</td> <td>※ 市販品</td> </tr> </tbody> </table>	種類	寸法 (L= mm)	適用内容	規格・品質等	・ 流し台	※1200 ・ 1500 ・ 1800	トラップ付き	※ 優良住宅部品 (セクショナルキッチンI型)	・ コンロ	※600 ・ 700	バックガード※有り	・ つり戸棚	※120 ・ 900 ・ 600			・ 水切り棚	※1200 ・ 900	ステンレス製※1 段式	※ 市販品				
	種類	寸法 (L= mm)	適用内容	規格・品質等																					
	・ 流し台	※1200 ・ 1500 ・ 1800	トラップ付き	※ 優良住宅部品 (セクショナルキッチンI型)																					
	・ コンロ	※600 ・ 700	バックガード※有り																						
	・ つり戸棚	※120 ・ 900 ・ 600																							
・ 水切り棚	※1200 ・ 900	ステンレス製※1 段式	※ 市販品																						
47 屋内掲示板	枠の材質 ※ アルミニウム製 表面の材質 ※ 塩ビ発泡シート張り																								
48 洗面カウンター	材 種 ・ メラミン樹脂化粧板張り (心材：集成材) ・ 人工大理石 奥行 (mm) ・ 約 450 ・ 約 600																								
49 収納家具	材質 (12.2.2) (19.7.2) 形状・寸法 ※ 図示 合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種																								
50 防煙垂れ壁	<p>・ 固定式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>高さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 網入り磨板ガラス</td> <td>※ 6.8</td> <td>・ 500</td> <td>アルミ製枠付き</td> </tr> <tr> <td>・ 線入り磨板ガラス</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 可動式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>高さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 垂直降下式 (巻取り型)</td> <td>※ 不燃布 (不燃認定品)</td> <td>※500 ・ 800 ・</td> <td>ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)</td> </tr> <tr> <td>・ 回転降下式</td> <td>鋼板製又はアルミ製</td> <td>※500 ・ 800 ・</td> <td>表面仕上げ ※天井材張り ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)</p>	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考	※ 網入り磨板ガラス	※ 6.8	・ 500	アルミ製枠付き	・ 線入り磨板ガラス	・	・		種類	材質	高さ (mm)	備考	・ 垂直降下式 (巻取り型)	※ 不燃布 (不燃認定品)	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)	・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・
材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考																						
※ 網入り磨板ガラス	※ 6.8	・ 500	アルミ製枠付き																						
・ 線入り磨板ガラス	・	・																							
種類	材質	高さ (mm)	備考																						
・ 垂直降下式 (巻取り型)	※ 不燃布 (不燃認定品)	※500 ・ 800 ・	ガイドレール ※固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)																						
・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・																						

章	項目	特記事項																																																
7 塗装 改修 工事	1 材料	<p>屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。 ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種</p>																																																
	2 下地調整	<p style="text-align: right;">[7.2.2~7][表7.2.1~7]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>下地面の種類</th> <th>下地調整の種類別</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td>・ RA種 ※ RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>・ RA種 ※ RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面</td> <td>・ RA種 ※ RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面 (鋼製建具)</td> <td>※ RB種 ・ RC種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>モルタル面及びプラスター面</td> <td>・ RA種 ※ RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート及びALC/パネル面</td> <td>・ RA種 ※ RB種</td> <td>(2-UE) 、(2-ASE) 及び (2-FUE) は除く</td> </tr> </tbody> </table> <p>既存モルタル下地面等のひび割れ部の補修 [表7.2.4~6] ※ 行わない ・ 行う (補修範囲及び補修方法は図示)</p>	下地面の種類	下地調整の種類別	備考	木部	・ RA種 ※ RB種		鉄鋼面	・ RA種 ※ RB種		亜鉛めっき面	・ RA種 ※ RB種		亜鉛めっき面 (鋼製建具)	※ RB種 ・ RC種		モルタル面及びプラスター面	・ RA種 ※ RB種		コンクリート及びALC/パネル面	・ RA種 ※ RB種	(2-UE) 、(2-ASE) 及び (2-FUE) は除く																											
	下地面の種類	下地調整の種類別	備考																																															
	木部	・ RA種 ※ RB種																																																
鉄鋼面	・ RA種 ※ RB種																																																	
亜鉛めっき面	・ RA種 ※ RB種																																																	
亜鉛めっき面 (鋼製建具)	※ RB種 ・ RC種																																																	
モルタル面及びプラスター面	・ RA種 ※ RB種																																																	
コンクリート及びALC/パネル面	・ RA種 ※ RB種	(2-UE) 、(2-ASE) 及び (2-FUE) は除く																																																
3 錆止め塗料塗り	<p>塗料種別 (7.3.2) 鉄鋼面錆止め塗料 EP-G 以外 ※A種 鉛・クロムフリー錆止めペイント1種 EP-G ※B種 亜鉛めっき面錆止め塗料 EP-G 以外 ※A種 ・ B種 EP-G ※C種</p>																																																	
4 塗装塗り	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">塗装の種類</th> <th rowspan="2">塗装面</th> <th colspan="2">工 程</th> </tr> <tr> <th>塗替え</th> <th>新規</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">・ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)</td> <td>木部 (外部)</td> <td>※B種 ・ [7.4.3]</td> <td>※A種 ・ [7.4.3]</td> </tr> <tr> <td>木部 (内部)</td> <td>※B種 ・ [7.4.3]</td> <td>※B種 ・ [7.4.3]</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種 ・ [7.4.4]</td> <td>・ A種 ・ B種 [7.4.4]</td> </tr> <tr> <td>亜鉛メッキ鋼面</td> <td>※B種 ・ [7.4.5]</td> <td>※B種 ・ [7.4.5]</td> </tr> <tr> <td>鋼製建具</td> <td>※A種 ・ [7.4.5]</td> <td>※B種 ・ [7.4.5]</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・ フタル酸樹脂エナメル塗り (FE)</td> <td>屋内木部</td> <td>[7.6.2]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>[7.6.3]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td>[7.6.3]</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ アクリル樹脂系水分散系塗料塗り (NAD)</td> <td>屋内のコンクリート面, モルタル面</td> <td>※ B種 [7.7.2]</td> <td>※ B種 (18.6.2)</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">・ 耐腐生塗料塗り (DP)</td> <td>鉄鋼面 上塗り ・ 1級(ふっ素樹脂塗料) ・ 2級(アクリル樹脂塗料) ・ 3級(ポリアルカン樹脂塗料)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種 [7.8.2]</td> <td>※A種 [7.8.2]</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面 上塗り ・ 1級(ふっ素樹脂塗料) ・ 2級(アクリル樹脂塗料) ・ 3級(ポリアルカン樹脂塗料)</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種 [7.8.3]</td> <td>※A種 [7.8.3]</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面</td> <td>・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種 [7.8.4]</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種 (18.7.4)</td> </tr> <tr> <td>押出成型セメント板面</td> <td>・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種 [7.8.4]</td> <td>・ A種 ・ B種 ・ C種 (18.7.4)</td> </tr> </tbody> </table>	塗装の種類	塗装面	工 程		塗替え	新規	・ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部 (外部)	※B種 ・ [7.4.3]	※A種 ・ [7.4.3]	木部 (内部)	※B種 ・ [7.4.3]	※B種 ・ [7.4.3]	鉄鋼面	※B種 ・ [7.4.4]	・ A種 ・ B種 [7.4.4]	亜鉛メッキ鋼面	※B種 ・ [7.4.5]	※B種 ・ [7.4.5]	鋼製建具	※A種 ・ [7.4.5]	※B種 ・ [7.4.5]	・ フタル酸樹脂エナメル塗り (FE)	屋内木部	[7.6.2]		鉄鋼面	[7.6.3]		亜鉛めっき鋼面	[7.6.3]		・ アクリル樹脂系水分散系塗料塗り (NAD)	屋内のコンクリート面, モルタル面	※ B種 [7.7.2]	※ B種 (18.6.2)	・ 耐腐生塗料塗り (DP)	鉄鋼面 上塗り ・ 1級(ふっ素樹脂塗料) ・ 2級(アクリル樹脂塗料) ・ 3級(ポリアルカン樹脂塗料)	・ A種 ・ B種 ・ C種 [7.8.2]	※A種 [7.8.2]	亜鉛めっき鋼面 上塗り ・ 1級(ふっ素樹脂塗料) ・ 2級(アクリル樹脂塗料) ・ 3級(ポリアルカン樹脂塗料)	・ A種 ・ B種 ・ C種 [7.8.3]	※A種 [7.8.3]	コンクリート面	・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種 [7.8.4]	・ A種 ・ B種 ・ C種 (18.7.4)	押出成型セメント板面	・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種 [7.8.4]	・ A種 ・ B種 ・ C種 (18.7.4)
塗装の種類	塗装面			工 程																																														
		塗替え	新規																																															
・ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部 (外部)	※B種 ・ [7.4.3]	※A種 ・ [7.4.3]																																															
	木部 (内部)	※B種 ・ [7.4.3]	※B種 ・ [7.4.3]																																															
	鉄鋼面	※B種 ・ [7.4.4]	・ A種 ・ B種 [7.4.4]																																															
	亜鉛メッキ鋼面	※B種 ・ [7.4.5]	※B種 ・ [7.4.5]																																															
	鋼製建具	※A種 ・ [7.4.5]	※B種 ・ [7.4.5]																																															
・ フタル酸樹脂エナメル塗り (FE)	屋内木部	[7.6.2]																																																
	鉄鋼面	[7.6.3]																																																
	亜鉛めっき鋼面	[7.6.3]																																																
・ アクリル樹脂系水分散系塗料塗り (NAD)	屋内のコンクリート面, モルタル面	※ B種 [7.7.2]	※ B種 (18.6.2)																																															
・ 耐腐生塗料塗り (DP)	鉄鋼面 上塗り ・ 1級(ふっ素樹脂塗料) ・ 2級(アクリル樹脂塗料) ・ 3級(ポリアルカン樹脂塗料)	・ A種 ・ B種 ・ C種 [7.8.2]	※A種 [7.8.2]																																															
	亜鉛めっき鋼面 上塗り ・ 1級(ふっ素樹脂塗料) ・ 2級(アクリル樹脂塗料) ・ 3級(ポリアルカン樹脂塗料)	・ A種 ・ B種 ・ C種 [7.8.3]	※A種 [7.8.3]																																															
	コンクリート面	・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種 [7.8.4]	・ A種 ・ B種 ・ C種 (18.7.4)																																															
	押出成型セメント板面	・ A-1種 ・ A-2種 ・ B-1種 ・ B-2種 ・ C-1種 ・ C-2種 [7.8.4]	・ A種 ・ B種 ・ C種 (18.7.4)																																															

章	項 目	特 記 事 項		
7 塗装改修工事	・ つや有り合成樹脂 エマルジョンペイント塗り (EP-G)	屋内木部	※B種 ・ [7.9.3]	※A種 ・ [7.9.3]
		屋内鉄鋼面	※B種 ・ [7.9.4]	・ A種 ・ B種 [7.9.4]
		屋内亜鉛めっき鋼面	※B種 ・ [7.9.5]	・ A種 ・ B種 [7.9.5]
		コンクリート面	※B種 ・ [7.9.2]	・ A種 ・ B種 [7.9.2]
		モルタル面	※B種 ・ [7.9.2]	・ A種 ・ B種 [7.9.2]
		プラスター面	※B種 ・ [7.9.2]	・ A種 ・ B種 [7.9.2]
		せっこうボード面	※B種 ・ [7.9.2]	・ A種 ・ B種 [7.9.2]
	・ 合成樹脂エマルジョンペ イント塗り (EP)	塗装面	※B種 ・ [7.10.2]	・ A種 ・ B種 [7.10.2]
		コンクリート面	※B種 ・ [7.10.2]	・ A種 ・ B種 [7.10.2]
		モルタル面	※B種 ・ [7.10.2]	・ A種 ・ B種 [7.10.2]
		プラスター面	※B種 ・ [7.10.2]	・ A種 ・ B種 [7.10.2]
		せっこうボード面	※B種 ・ [7.10.2]	・ A種 ・ B種 [7.10.2]
	・ 合成樹脂エマルジョン模様 塗料塗り (EP-T)	屋内コンクリート面・珪外面・ プラスター面 ・ せっこうボード 面・木材等	・ A種 ※B種 ・ C種 [7.11.2]	・ A種 ・ B種 [7.11.2]
	・ ウレタン樹脂フニス塗り (U C)	木部	・ A種 ※B種 [7.12.2]	・ A種 ※B種 [7.12.2]
	・ クリアラッカー塗り (CL)	木部	・ A種 ※B種 [7.5.2]	・ A種 ※B種 [7.5.2]
・ オイルステイン塗り (OS)	木部	[7.13.2]	[7.13.2]	
・ 木材保護塗料塗り (WP)	木部	・ A種 ※B種 [7.14.2]	・ A種 ・ ※B種 [7.14.2]	
合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種別		※1種 [7.4.2]		

章	項目	特記事項																			
8 耐震改修工事	1 鉄筋の種類	[8.2.1][表 8.2.1] <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格の名称</th> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)</td> <td>・SD295A</td> <td></td> <td>※ D16 以下</td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td></td> <td>※ D19 以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	規格の名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	・SD295A		※ D16 以下	・SD345		※ D19 以上								
	規格の名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)																	
	鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	・SD295A		※ D16 以下																	
		・SD345		※ D19 以上																	
2 溶接金網	[8.2.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">形状等</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目の形状・寸法・鉄線の径 (mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	形状等				種類	種類の記号	網目の形状・寸法・鉄線の径 (mm)	使用部位	・溶接金網				・鉄筋格子							
形状等																					
種類	種類の記号	網目の形状・寸法・鉄線の径 (mm)	使用部位																		
・溶接金網																					
・鉄筋格子																					
3 鉄筋の継手	[8.3.4] <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">継手方法</th> </tr> <tr> <th>適用箇所</th> <th>継手方法と適用径の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・柱主筋</td> <td>・ガス圧接 (D19 以上)</td> </tr> <tr> <td>・梁主筋</td> <td>・ガス圧接 (D19 以下)</td> </tr> <tr> <td>・耐力壁</td> <td>・重ね継手</td> </tr> <tr> <td>・基礎スラブ、耐圧スラブ等、土圧壁など</td> <td>・ガス圧接 () ・重ね継手 ()</td> </tr> </tbody> </table> 鉄筋の継手位置 [8.3.4][表 8.3.2][表 8.3.3] ・構造図による ・ 重ね継手 主筋及び耐力壁の重ね長さ ・構造図による ・	継手方法		適用箇所	継手方法と適用径の範囲	・柱主筋	・ガス圧接 (D19 以上)	・梁主筋	・ガス圧接 (D19 以下)	・耐力壁	・重ね継手	・基礎スラブ、耐圧スラブ等、土圧壁など	・ガス圧接 () ・重ね継手 ()								
継手方法																					
適用箇所	継手方法と適用径の範囲																				
・柱主筋	・ガス圧接 (D19 以上)																				
・梁主筋	・ガス圧接 (D19 以下)																				
・耐力壁	・重ね継手																				
・基礎スラブ、耐圧スラブ等、土圧壁など	・ガス圧接 () ・重ね継手 ()																				
4 帯筋	[8.3.4] 組立の形の種別 ・構造図による ・																				
5 鉄筋のかぶり厚さ	[8.3.5][表 8.3.6] 最小かぶり厚さ (目地底からの算出を行う) ※改修標準仕様書表 8.3.6 による ・構造図による ・ 柱及び梁の主筋に D29 以上の使用の有無 ・無し ・有り 適用箇所 () 主筋のかぶり厚さ ・最小かぶり厚さ () mm 特殊な要求性能におけるコンクリートの部分 (耐久性上不利な部分) ・無し ・有り 適用箇所 () ・改修標準仕様書表 8.3.6 に加わる厚さ () mm ・																				

章	項目	特記事項												
8 耐震改修工事	6 圧接完了後の試験	<ul style="list-style-type: none"> ・超音波探傷試験 [8.3.8] (5.4.9) (5.4.10) 箇所数 <ul style="list-style-type: none"> ・全圧接部 適用箇所 <ul style="list-style-type: none"> ・構造図による ・標準仕様書 5.4.9(2)(i)による箇所数 適用箇所 <ul style="list-style-type: none"> ・構造図による ・引張試験 (5.4.9) (5.4.10) 適用箇所 <ul style="list-style-type: none"> ・構造図による 												
	7 コンクリートの種別及び強度	レディーミクストコンクリートの種別 [8.1.3] [8.1.4] [表 8.1.1] ※ I 類 (茨城県の指定工場であること) ・ II 類 ※普通コンクリート <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">設計基準強度 Fc (N/mm²)</th> <th style="width: 20%;">気乾単位 容積質量 (t/ m³)</th> <th style="width: 20%;">スランプ (cm)</th> <th style="width: 40%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・ 21 ※24</td> <td rowspan="2">2.3 程度</td> <td>15</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>又は 18</td> </tr> <tr> <td>・ 18</td> <td>2.3 程度</td> <td>15 又は 18</td> </tr> </tbody> </table>	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	気乾単位 容積質量 (t/ m ³)	スランプ (cm)	適用箇所	・ 21 ※24	2.3 程度	15		又は 18	・ 18	2.3 程度	15 又は 18
	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	気乾単位 容積質量 (t/ m ³)	スランプ (cm)	適用箇所										
・ 21 ※24	2.3 程度	15												
		又は 18												
・ 18	2.3 程度	15 又は 18												
8 普通コンクリートの材料	セメントの種類 [8.2.5] [表 8.2.3] <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">セメントの種類</th> <th style="width: 30%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 普通ポルトランドセメント又は 混合セメントの A 種</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメント B 種</td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメント B 種</td> </tr> </tbody> </table> 普通ポルトランドセメントの品質は、 JIS R 5210 に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30%;">水和熱</td> <td style="width: 20%;">7 日</td> <td style="width: 50%;">352J/g 以下</td> </tr> <tr> <td>28 日</td> <td>402J/g 以下</td> </tr> </tbody> </table> 使用骨材のアルカリシリカ反応性による区分 [8.2.5] ※A ・ B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m 以下)	セメントの種類	適用箇所	・ 普通ポルトランドセメント又は 混合セメントの A 種		・ 高炉セメント B 種	・ フライアッシュセメント B 種	水和熱	7 日	352J/g 以下	28 日	402J/g 以下		
セメントの種類	適用箇所													
・ 普通ポルトランドセメント又は 混合セメントの A 種														
・ 高炉セメント B 種														
・ フライアッシュセメント B 種														
水和熱	7 日	352J/g 以下												
	28 日	402J/g 以下												
9 混和材料	[8.2.5] [8.5.8] <ul style="list-style-type: none"> ・ 混和剤 (JIS A 6204 に適合する A E 剤、 A E 減水剤又は高性能 A E 減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分は I 種とする。) ・ 混和材 (JIS A 6201 に適合するフライアッシュの I 類又は II 類、 JIS A 6206 に適合する高炉スラグ微粉末又は JIS A 6202 に適合する膨張材) 													

章	項目	特記事項																										
8 耐震改修工事	10 モルタル及びグラウト材	<p>・構造用モルタル [8. 2. 10] [8. 5. 10]</p> <p>材料 ・改修標準仕様書[8. 2. 5]</p> <p>圧縮強度 ・構造図による ・</p> <p>フロー値 ・構造図による ・</p> <p>・グラウト材</p> <p>・無収縮グラウト材（プレミックス形及び現場調合形）</p> <p>圧縮強度 ・構造図による ・</p> <p style="text-align: center;">※下表</p> <p>無収縮グラウト材の品質・性能及び試験方法</p> <table border="1" data-bbox="529 519 1465 1281"> <tr> <td>混和剤</td> <td>セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルフアルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。</td> </tr> <tr> <td>セメント</td> <td>JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>JIS A 5308 によるほか、水温 10℃以上で施工する。</td> </tr> <tr> <td>砂</td> <td>土木学会コンクリート標準示法書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">無収縮グラウトの品質及び試験方法（現場調合形においては標準仕様量・配合値）</td> </tr> <tr> <td>コンシステンシー</td> <td>Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒</td> </tr> <tr> <td>ブリージング</td> <td>練り混ぜ2時間後のブリージング率 : 2. 0%以下</td> </tr> <tr> <td>凝結時間</td> <td>凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内</td> </tr> <tr> <td>無収縮性</td> <td>材齢7日 収縮しないこと</td> </tr> <tr> <td>圧縮強度</td> <td>材齢 3日 2. 5N/mm²以上 材齢28日 4. 5N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>付着強度</td> <td>材齢28日 2. 5N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>塩化物量</td> <td>0. 30kg/ m³以下</td> </tr> <tr> <td>試験方法</td> <td>1) 日本道路公団規格（JHS）312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。</td> </tr> </table> <p>養生 施工時及び養生期間中（7日以上）は、常に湿潤状態を保ち、圧入モルタルの温度を5℃以上に保つ。</p>	混和剤	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルフアルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。	セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。	水	JIS A 5308 によるほか、水温 10℃以上で施工する。	砂	土木学会コンクリート標準示法書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない	無収縮グラウトの品質及び試験方法（現場調合形においては標準仕様量・配合値）		コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒	ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率 : 2. 0%以下	凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内	無収縮性	材齢7日 収縮しないこと	圧縮強度	材齢 3日 2. 5N/mm ² 以上 材齢28日 4. 5N/mm ² 以上	付着強度	材齢28日 2. 5N/mm ² 以上	塩化物量	0. 30kg/ m ³ 以下	試験方法	1) 日本道路公団規格（JHS）312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。
	混和剤	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルフアルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。																										
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。																											
水	JIS A 5308 によるほか、水温 10℃以上で施工する。																											
砂	土木学会コンクリート標準示法書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない																											
無収縮グラウトの品質及び試験方法（現場調合形においては標準仕様量・配合値）																												
コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒																											
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率 : 2. 0%以下																											
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内																											
無収縮性	材齢7日 収縮しないこと																											
圧縮強度	材齢 3日 2. 5N/mm ² 以上 材齢28日 4. 5N/mm ² 以上																											
付着強度	材齢28日 2. 5N/mm ² 以上																											
塩化物量	0. 30kg/ m ³ 以下																											
試験方法	1) 日本道路公団規格（JHS）312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。																											
11 型枠	<p>モルタル圧入部の型枠は、注入圧力に耐え得るグラウト用とし、周囲に急結性又は速乾性コーキング材を施し、モルタル漏れのないようにする。</p> <p>せき板の材料 [8. 2. 6]</p> <p>・合板 コンクリート及びグラウト打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議すること。</p> <p>・床型枠用鋼製デッキプレート ・</p> <p>スリーブの材質 [8. 2. 6] [表 8. 2. 4]</p> <p>・改修標準仕様書 8. 2. 6(f) (2) 及び改修標準仕様書 表 8. 2. 4による ・</p> <p>打増し厚さ [8. 7. 9]</p> <p>・打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）</p> <p>・20mm ・</p> <p>・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る）</p> <p>・10mm ・20mm ・</p> <p>・外装タイル後張り面の打増し処理</p> <p>・20mm ・</p> <p>打増し範囲</p> <p>・意匠図による</p> <p>・構造図による（床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面の打増し部に限る。）</p>																											

章	項目	特記事項															
8 耐震 改修 工事	17 縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等	高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※構造図による [8. 1. 6]															
	18 入熱、パス間温度の溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・構造図による ・ 適用箇所 ・構造図による ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部															
	19 鋼材	鋼材の材質 [8. 2. 7] [表 8. 2. 5] <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">種類の記号</th> <th style="width: 30%;">適用箇所</th> <th style="width: 40%;">規格等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS 規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS 規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※JIS 規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	適用箇所	規格等			※JIS 規格による			※JIS 規格による			※JIS 規格による			
	種類の記号	適用箇所	規格等														
			※JIS 規格による														
			※JIS 規格による														
			※JIS 規格による														
20 高力ボルト	区分 [8. 2. 8] <ul style="list-style-type: none"> ・トルシア形高力ボルト 2種 (S10T) ・JIS 形高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※構造図による すべり係数試験 [8. 13. 2] ※行わない ・行う																
21 溶融亜鉛めっき高力ボルト	セットの種類 (7. 2. 2) <ul style="list-style-type: none"> ・1種 (F8T 相当) 摩擦面の処理 (7. 12. 4) ※ブラスト処理 (表面粗度 50 μ mRz 以上) 摩擦面の確認方法 <ul style="list-style-type: none"> ・図示 ・試験片によるすべり耐力試験 																
22 溶接接合	スカラップの形状 [8. 14. 7] <ul style="list-style-type: none"> ・改良型 エンドタブの切除 <ul style="list-style-type: none"> ・行なう 適用箇所 <ul style="list-style-type: none"> ・全て ・構造図による ・行わない 																
23 溶接部の試験	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 [8. 14. 11~12] ※行う																

章	項目	特記事項																																
8 耐震 改修 工事	24 錆止め塗装	塗装の種類 [8.16.2][8.16.3][7.3.2][表7.3.1][表7.3.2] 鉄鋼面 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・改修標準仕様書 表7.3.1 A種</td> <td>・屋外 (改修標準仕様書8.16.2の範囲以外)・</td> </tr> <tr> <td>・改修標準仕様書 表7.3.1 A種</td> <td>・屋内 (改修標準仕様書8.16.2の範囲以外)・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 亜鉛めっき面 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・改修標準仕様書 表7.3.2 A種</td> <td>・屋外 ・屋内</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 鋼製スリーブの内側(鉄骨に溶接されたもの) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・改修標準仕様書 表7.3.1 A種</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>	種別	適用箇所	・改修標準仕様書 表7.3.1 A種	・屋外 (改修標準仕様書8.16.2の範囲以外)・	・改修標準仕様書 表7.3.1 A種	・屋内 (改修標準仕様書8.16.2の範囲以外)・	・	・	種別	適用箇所	・改修標準仕様書 表7.3.2 A種	・屋外 ・屋内	・	・	種別	適用箇所	・改修標準仕様書 表7.3.1 A種	・	・	・												
	種別	適用箇所																																
	・改修標準仕様書 表7.3.1 A種	・屋外 (改修標準仕様書8.16.2の範囲以外)・																																
・改修標準仕様書 表7.3.1 A種	・屋内 (改修標準仕様書8.16.2の範囲以外)・																																	
・	・																																	
種別	適用箇所																																	
・改修標準仕様書 表7.3.2 A種	・屋外 ・屋内																																	
・	・																																	
種別	適用箇所																																	
・改修標準仕様書 表7.3.1 A種	・																																	
・	・																																	
25 耐火被覆材	種別等 (7.9.2~7)[8.17.2] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>材料・工法</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・耐火材吹付け</td> <td>・乾式吹付けロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・半乾式吹付けロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火板張り</td> <td>・繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火材巻付け</td> <td>・高耐熱ロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 性能 <table border="1"> <thead> <tr> <th>性能</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・30分耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・1時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・2時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・3時間耐火</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	材料・工法	適用箇所 (部位・部分)	・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		・半乾式吹付けロックウール		・湿式ロックウール		・		・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		・		・耐火材巻付け	・高耐熱ロックウール		・ラス張りモルタル塗り	—		性能	適用箇所 (部位・部分)	・30分耐火		・1時間耐火		・2時間耐火		・3時間耐火	
種別	材料・工法	適用箇所 (部位・部分)																																
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール																																	
	・半乾式吹付けロックウール																																	
	・湿式ロックウール																																	
	・																																	
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板																																	
	・																																	
・耐火材巻付け	・高耐熱ロックウール																																	
・ラス張りモルタル塗り	—																																	
性能	適用箇所 (部位・部分)																																	
・30分耐火																																		
・1時間耐火																																		
・2時間耐火																																		
・3時間耐火																																		
26 アンカーボルト	適用 (7.2.4)(表7.2.3)(7.10.3) <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造用アンカーボルト <ul style="list-style-type: none"> ・ JSS II 13-2004 ABR400 ・ JSS II 13-2004 ABR490 ・ ・ 建方用アンカーボルト <ul style="list-style-type: none"> 材質 ・ SS400 アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準仕様書 表7.2.3による ・ 保持及び埋込み工法 (7.10.3)(表7.10.1) <ul style="list-style-type: none"> ・ 構造用 <ul style="list-style-type: none"> ※構造図による ・ 建方用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準仕様書 表7.10.1 (・A種 ・B種 ・C種)による 																																	

章	項目	特記事項																								
8 耐震 改修 工事	27 柱底均しモルタル	モルタルの種別 (7.2.9) (7.10.3) (表7.10.1) [8.2.10] <ul style="list-style-type: none"> ・無収縮モルタル 圧縮強度 <ul style="list-style-type: none"> ・構造図による 無収縮モルタルの材料及び調合材料、調合等 <ul style="list-style-type: none"> ・標準仕様書 7.2.9 よる 品質及び試験方法 <ul style="list-style-type: none"> ・標準仕様書 表 7.2.6 による 工法の種別 <ul style="list-style-type: none"> ・標準仕様書 表 7.10.2 ・A種 (モルタル厚さ 50) ・B種 (モルタル厚さ 30) 																								
	28 スタッドボルト	(7.2.5) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>径 (呼び名)</th> <th colspan="4">長さ (呼び長さ) mm</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td colspan="2">・ 120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 130</td> <td>・ 150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 130</td> <td>・ 150</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	径 (呼び名)	長さ (呼び長さ) mm				適用箇所	16φ	・ 80	・ 100	・ 120			19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150		22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	
	径 (呼び名)	長さ (呼び長さ) mm				適用箇所																				
	16φ	・ 80	・ 100	・ 120																						
	19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																					
22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																						
29 溶融亜鉛めっき	種別等 (7.12.3) (表 14.2.2) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>亜鉛めっきの種別</th> <th>材料</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A種 (HDZ55)</td> <td>最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板</td> <td rowspan="3">※構造図による</td> </tr> <tr> <td>B種 (HDZ45)</td> <td>最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板</td> </tr> <tr> <td>C種 (HDZ35)</td> <td>普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板</td> </tr> </tbody> </table>	亜鉛めっきの種別	材料	適用箇所	A種 (HDZ55)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※構造図による	B種 (HDZ45)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	C種 (HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板															
亜鉛めっきの種別	材料	適用箇所																								
A種 (HDZ55)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※構造図による																								
B種 (HDZ45)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板																									
C種 (HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板																									
〈耐震〉 30 既存部分の処理	適用範囲 [8.19.3] [8.20.3] [8.21.3] <ul style="list-style-type: none"> ※既存コンクリートとの打継ぎ面 ※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充てん部の接合面 既存コンクリートの目荒らしの程度 <ul style="list-style-type: none"> ・既存柱、梁面 打継ぎ面の 15%~30%程度 ・既存壁 打継ぎ面の 10%~15%程度 既存コンクリートの目荒らしの範囲 <ul style="list-style-type: none"> ・平均深さ 2~5mm (最大 7mm) 程度の凹面を、全体にわたってつける。 																									
31 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	コンクリートの打込み工法の種類 [8.19.8] [8.21.5] <ul style="list-style-type: none"> ・流込み工法 ・圧入工法 																									
32 柱補強	<ul style="list-style-type: none"> ・溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 [8.21.5] ・鋼板巻き工法及び帯板巻付け工法 [8.21.6] ・連続繊維補強工法 [8.21.7] 																									

章	項 目	特 記 事 項
8 耐震改修工事	33 連続繊維シート巻き	<p>材料・形状 [8. 21. 11] 採用した工法の規定を満足するもの</p> <p>材質</p> <p>引張り強度（含浸硬化後） ・ 2500N/mm² 以上 ・ 3000N/mm² 以上</p> <p>ヤング係数（含浸硬化後） ・ 2.35 × 10⁵ N/mm² 程度 ・ 2.35 × 10⁵ N/mm² 以上</p> <p>工法 [8. 21. 7] ※（一財）日本建築防災協会の評価を受けた工法 ・</p> <p>下地調整</p> <p>ひび割れ部の改修工法の種類 [8. 21. 7] ・ 樹脂注入工法 ・ Uカットシーラ材充填工法 ・ シール工法</p> <p>柱の隅角分の面取り [8. 21. 7] ※工法の評価内容による</p>
	34 スリットの施工	<p>スリット部の配管等の探査 [8. 22. 2] ※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う ・ はつり出し</p>

章	項目	特記事項																																																																																						
9 環境配慮 改修工事	1 アスベスト含有分析調査	<p>分析によるアスベスト含有建材の調査 [9.1.1] ・行う（下表による）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※定性分析 ・ 定量分析</td> </tr> </tbody> </table> <p>接取箇所 ※図示 ・</p> <p>分析対象 ※アスベスト6種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト）</p> <p>分析方法 ※JIS A 1481 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による 分析結果については、監督員に提出すること。</p>	材料名	調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）		※定性分析 ・ 定量分析		※定性分析 ・ 定量分析		※定性分析 ・ 定量分析		※定性分析 ・ 定量分析																																																																												
	材料名	調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）																																																																																						
	※定性分析 ・ 定量分析																																																																																							
	※定性分析 ・ 定量分析																																																																																							
	※定性分析 ・ 定量分析																																																																																							
	※定性分析 ・ 定量分析																																																																																							
2 アスベスト粉じん濃度測定	<p>アスベスト粉じん測定 [9.1.1] ・行う（測定名称及び測定点は下表による）</p> <p>測定箇所 ※ 図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点(各施工箇所ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※測定1</td> <td rowspan="2">処理作業前</td> <td>作業室内</td> <td>100㎡あたり1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※測定2</td> <td>作業場外隣地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※測定3</td> <td rowspan="4">処理作業中</td> <td>作業室内</td> <td>100㎡あたり1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※測定4</td> <td>負圧除塵装置の排出吹出し口</td> <td>出口吹出し風速 1m/sec 以下の位置1台あたり1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※測定5</td> <td>作業場出入口付近</td> <td>1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※測定6</td> <td>作業場外隣地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※測定7</td> <td>処理作業後</td> <td>作業室内</td> <td>100㎡あたり1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※測定8</td> <td>(シート養生中)</td> <td>作業場外隣地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・測定9</td> <td>処理作業後</td> <td>作業室内</td> <td>各点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・測定10</td> <td>(シート撤去後1週間以降)</td> <td>調査対象室外部の付近</td> <td>計点</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>アスベスト粉じん濃度測定方法 アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法—第一部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。</p> <p>報告書の作成（記録する項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>測定名称</th> <th>測定3</th> <th>測定1、4、5、7、9、10</th> <th>測定2、6、8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計数機器</td> <td colspan="3">位相差顕微鏡</td> </tr> <tr> <td>メンブレンフィルタの直径</td> <td>25mm</td> <td></td> <td>47mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量</td> <td>1リットル/min</td> <td>5リットル/min</td> <td>10リットル/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5min</td> <td>120min</td> <td>240min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td colspan="3">アセトン—トリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法</td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td colspan="3">総アスベスト繊維数200本又は視野50視野</td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td colspan="3">直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ直径比3：1以上</td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>50f/リットル</td> <td>0.5f/リットル</td> <td>0.3f/リットル</td> </tr> </tbody> </table> <p>ア、測定結果 イ、測定時間 ウ、測定位置 エ、サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量） オ、マウンティング方法 カ、顕微鏡視野面積、計数視野数 キ、測定時（各測定場所ごと）天候、温度、湿度、外気の風速及び風向</p>	測定名称	測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備考	※測定1	処理作業前	作業室内	100㎡あたり1点		※測定2	作業場外隣地境界	4方向各1点		※測定3	処理作業中	作業室内	100㎡あたり1点		※測定4	負圧除塵装置の排出吹出し口	出口吹出し風速 1m/sec 以下の位置1台あたり1点		※測定5	作業場出入口付近	1点		※測定6	作業場外隣地境界	4方向各1点		※測定7	処理作業後	作業室内	100㎡あたり1点		※測定8	(シート養生中)	作業場外隣地境界	4方向各1点		・測定9	処理作業後	作業室内	各点		・測定10	(シート撤去後1週間以降)	調査対象室外部の付近	計点		測定名称	測定3	測定1、4、5、7、9、10	測定2、6、8	計数機器	位相差顕微鏡			メンブレンフィルタの直径	25mm		47mm	試料の吸引流量	1リットル/min	5リットル/min	10リットル/min	試料の吸引時間	5min	120min	240min	試料の透明化	アセトン—トリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法			計数条件	総アスベスト繊維数200本又は視野50視野			計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ直径比3：1以上			定量限界	50f/リットル	0.5f/リットル	0.3f/リットル
測定名称	測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備考																																																																																				
※測定1	処理作業前	作業室内	100㎡あたり1点																																																																																					
※測定2		作業場外隣地境界	4方向各1点																																																																																					
※測定3	処理作業中	作業室内	100㎡あたり1点																																																																																					
※測定4		負圧除塵装置の排出吹出し口	出口吹出し風速 1m/sec 以下の位置1台あたり1点																																																																																					
※測定5		作業場出入口付近	1点																																																																																					
※測定6		作業場外隣地境界	4方向各1点																																																																																					
※測定7	処理作業後	作業室内	100㎡あたり1点																																																																																					
※測定8	(シート養生中)	作業場外隣地境界	4方向各1点																																																																																					
・測定9	処理作業後	作業室内	各点																																																																																					
・測定10	(シート撤去後1週間以降)	調査対象室外部の付近	計点																																																																																					
測定名称	測定3	測定1、4、5、7、9、10	測定2、6、8																																																																																					
計数機器	位相差顕微鏡																																																																																							
メンブレンフィルタの直径	25mm		47mm																																																																																					
試料の吸引流量	1リットル/min	5リットル/min	10リットル/min																																																																																					
試料の吸引時間	5min	120min	240min																																																																																					
試料の透明化	アセトン—トリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法																																																																																							
計数条件	総アスベスト繊維数200本又は視野50視野																																																																																							
計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さ直径比3：1以上																																																																																							
定量限界	50f/リットル	0.5f/リットル	0.3f/リットル																																																																																					

章	項目	特記事項											
9 環境配慮改修工事	3 アスベスト含有吹付け材の除去（レベル1）	<p>アスベスト含有吹付け材の除去 [9.1.3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う 除去方法は9.1.3による他、除去の部位・内部に応じた除去は専門工事業社の仕様とする <p>除去物及び汚染物質等 処理方法 ※密封処理（二重袋梱包） 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セメント固化 											
	4 アスベスト含有保温材等の除去（レベル2）	<p>アスベスト含有保温材の除去 [9.1.4]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う <p>作業上の隔離</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う ・行わない 											
	5 アスベスト含有成形板の除去（レベル3）	<p>アスベスト含有成形板の除去 [9.1.5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行う 											
	6 外壁断熱工事	<p>断熱材の種類 [9.3.2]</p> <table border="1" data-bbox="534 806 1476 985"> <thead> <tr> <th>材料名</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ビーズ法^ホ スチレンフォーム</td> <td rowspan="5">・</td> </tr> <tr> <td>・押出法^ホ スチレンフォームA種</td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォーム</td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール</td> </tr> </tbody> </table> <p>外装材の種類</p> <table border="1" data-bbox="534 1052 1476 1086"> <tr> <td>・</td> <td>防火性能</td> </tr> </table> <p>既存外壁の仕上材の撤去 ・有り ・なし [9.3.3] 下地面の清掃及び下地調整 ※断熱材製造所の指定する仕様</p> <p>通気層 ・有り(mm) ・なし 試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し、監督員の承諾を受ける 特記無き事項は、製造所の仕様による。</p>	材料名	厚さ(mm)	・ビーズ法 ^ホ スチレンフォーム	・	・押出法 ^ホ スチレンフォームA種	・硬質ウレタンフォーム	・フェノールフォーム	・ロックウール	・グラスウール	・	防火性能
	材料名	厚さ(mm)											
	・ビーズ法 ^ホ スチレンフォーム	・											
・押出法 ^ホ スチレンフォームA種													
・硬質ウレタンフォーム													
・フェノールフォーム													
・ロックウール													
・グラスウール													
・	防火性能												
7 ガラス改修工事	<p>複層ガラスの厚さ 建具表による [9.4.2] 断熱性・日射遮へい性による区分 ※U3-1 ・U3-2</p>												
8 屋上緑化改修工事	<p>植栽基盤及び材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋上緑化軽量システム <p>芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※図示 ・ 見切材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 ・</p>												

章	項目	特記事項
9 環境配慮 改修工事	9 透水性アスファルト 舗装改修工事	<p>路盤材料 [9.7.4][表9.7.5]</p> <p>※再生クラッシャラン (RC-40)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラッシャラン鉄鋼スラグ (CS-40) ・クラッシャラン (C-40) <p>透水性の高いものを使用する</p> <p>路盤の締固め度試験 ※行わない</p> <p>遮断層及び凍上抑制層の材料 [9.7.3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遮断層 ※川砂、海砂又良質な山砂 厚さは図示 ・凍上抑制層 ※再生クラッシャラン ・クラッシャラン 切り込み砂利・砂 厚さは図示 <p>盛り土に用いる材料 [9.7.3][表9.7.1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 <p>路床安定処理</p> <p>※添付材料による安定処理 [9.7.3][表9.7.3]</p> <p>種類 ・普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高炉セメントB種 ・生石灰 () ・消石灰 () <p>添加量 kg/m³ (目標 CBR ※5以上 ・)</p> <p>路床土の支持力比試験 ※行う (※乱した土 ・乱さない土)</p> <p>路床締固め度の試験 ※行う</p> <p>砂の粒度試験 ※行う</p> <p>透水性アスファルト混合物 [9.7.6][表9.7.7]</p> <ul style="list-style-type: none"> 車道部 ※ポリマー改質アスファルト I 類 歩道部 ※ストレートアスファルト <p>透水性アスファルト混合物等の抽出試験 ※行わない ・行う [9.7.9]</p>
	10 PCB 含有シーリング材 処分	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次判定 現場にてサンプルを摂取し、シーリング材種及び PCB 含有分析の要否を判定する 採取箇所数 計 箇所 ・第二次判定 専門分析機関にて PCB 含有量の分析を行う 分析個数 計 箇所 ・除去処理工事 除去範囲 ※図示 撤去方法 ・「標準施工要領 (日本シーリング工事業協同組合連合会/日本シーリング 材工業会による

本 工 事 費 内 訳 書							
番号	名 称	品 質・規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	H29 国府中学校 特別教室棟	屋上防水改修工事					
	[種目内訳]						
A	直接工事費		1.0	式			
B	共通費		1.0	式			
	工事価格	A+B					
	消費税相当額	8%					
	請負に付する額						

本 工 事 費 内 訳 書							
番号	名 称	品 質・規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	[科目内訳]						
A	直接工事費						
1	仮設・準備工事		1.0	式			
2	防水改修工事		1.0	式			
3	機械設備工事		1.0	式			
	計						

本 工 事 費 内 訳 書							
番号	名 称	品 質・規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	[細目内訳]						
1	準備・撤去工事						
	墨出し		779.0	m ²			
	養生		779.0	m ²			
	整理清掃・あと片付け		779.0	m ²			
	荷揚げ用仮設足場・階段	枠組本足場手摺先行方式 仮設足場W=900	77.7	m ²			
	仮設材運搬	枠組本足場	77.7	m ²			
	既存断熱アスファルト防水撤去	平面	779.0	m ²			
	既存アスファルト防水撤去	立ち上がり	81.1	m ²			
	屋根ケレン清掃	全面デッキブラシ	860.1	m ²			
	既存脱気筒撤去		7.0	箇所			
	ルーフトレイン撤去		10.0	箇所			
	撤去材処分費	防水シート	23.7	m ³			
	同上 運搬費	4t車	3.0	台			

本 工 事 費 内 訳 書							
番号	名 称	品 質・規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	小 計						
2	防水改修工事						
	下地調整	ポリマーセメントペースト	860.1	m ²			
	X-1 塗膜防水改修(平面)	ウレタンゴム系 厚2.0 塗装共	779.0	m ²			
	X-2 密着工法 塗膜防水改修(立ち上がり)	ウレタンゴム系 厚2.0 塗装共	81.1	m ²			
	X-2 密着工法 塗膜防水改修(笠木)	メッシュ入り ウレタンゴム系 厚2.0 塗装共	35.6	m ²			
	下地調整(笠木)	ポリマーセメントペースト	35.6	m ²			
	脱気筒取り付け	SUS	11.0	箇所			
	断熱塗装	ガイナ(セラミック系)	779.0	m ²			
	改修用ルーフトレイン取付		10.0	箇所			
	小 計						

本 工 事 費 内 訳 書							
番号	名 称	品 質・規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	機械工事費						
	エアコン室外機撤去再設置 配管、コンクリート基礎改修共	東芝ROB-AP2224HS 2基 約206kg/台	1.0	式			
	計						

本 工 事 費 内 訳 書							
番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
B	共通費						
	共通仮設費		1.0	式			
	現場経費		1.0	式			
	一般管理費		1.0	式			
	契約保証費		1.0	式			
	共通費 計						

集 計 表

名 称		数 量				(員 数)	数 量	合 計
屋上面積								
平面	塗布防水断熱	60.60	×	11.80			715.08	
	養生	5.20	×	5.00			26.00	
	あと片付け	5.60	×	6.80			38.08	
	クレン清掃							
	下地プライマー							
							779.16	779.00 m ²
立上がり		60.60	×	0.45		2.00	54.54	
		18.60	×	0.45		2.00	16.74	
		0.80	×	0.45		10.00	3.60	
		1.40	×	0.45		10.00	6.30	
							81.18	81.10 m ²
防水層撤去	平面	779.00	×	0.0300			23.37	
	立面	81.18	×	0.0050			0.41	
							23.78	23.70 m ³
			×		m ³			
			×		kg/m ²			kg
運搬費	4t車	3.00					3.00	3.00 台
荷揚げ用足場	W=900	5.40	×	14.40			77.76	77.70 m ²
安全手摺			+		+		0.00	0.00 m
床ひび割れ補修			×		m/床m ²		0.00	0.00
								m
ドレイン撤去再取	縦	6.00					6.00	6.00 箇所
	横	4.00					4.00	4.00 箇所
パラペット	300+150	60.60	×	0.45		2.00	27.27	
	塗膜防水	18.60	×	0.45		2.00	8.37	
							35.64	35.60 m ²
室外機撤去再設置								
	基礎共						1.00	1.00 式

H29 国府中学校 特別教室棟 屋上防水改修工事

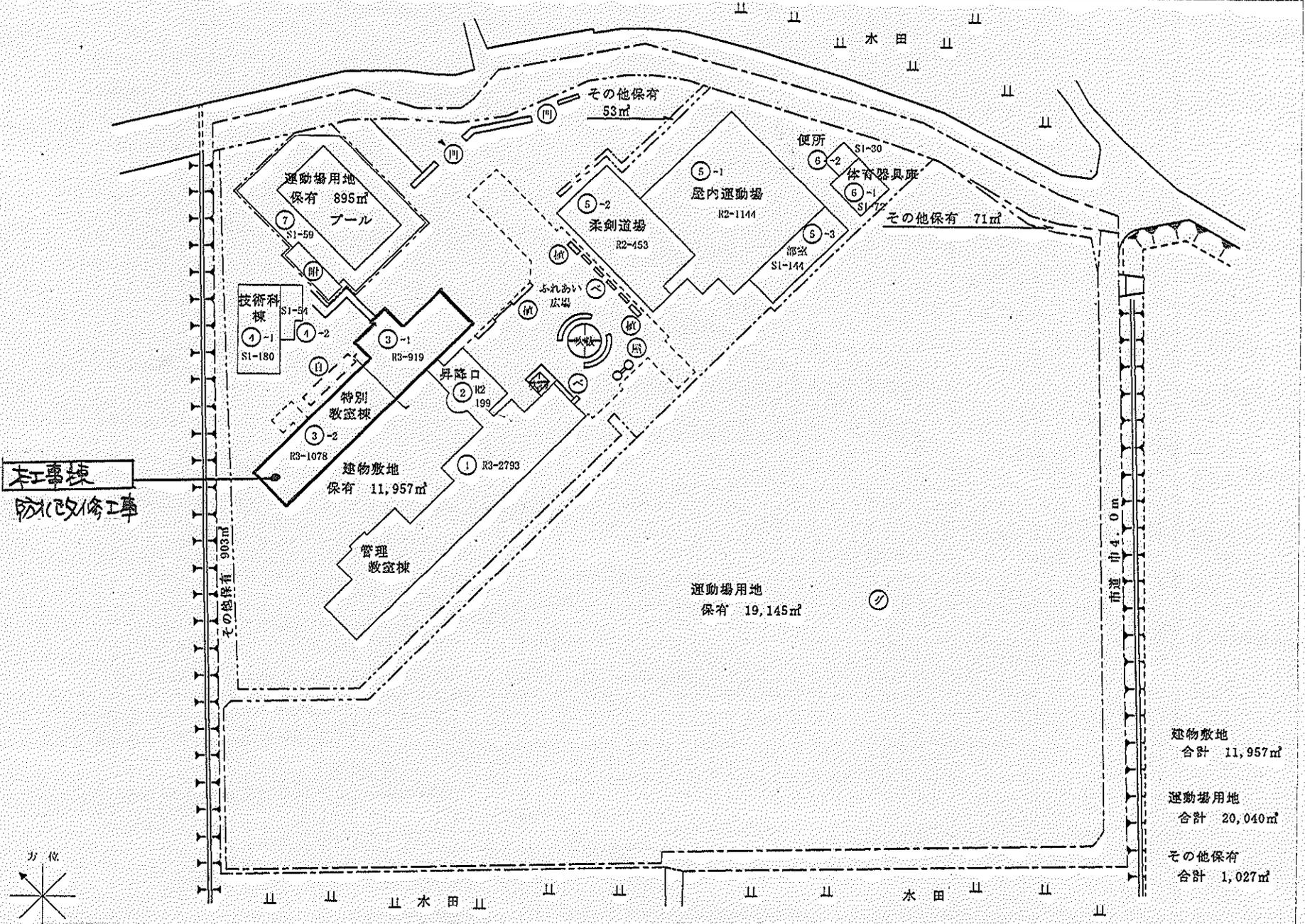
2017

3604-003

(平成28年度)

施設の配置図	縮尺	1/1200	m	学校名	国府中学校			調査番号	08	205	3604	整理番号	0525
					(都道府県)	(市町村)	(学校)						

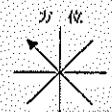
- 凡例**
- 建物
- ⊕ 木 木とりこわし建物
 - ⊖ 危険建物
 - ⊙ 借川建物
 - ⊖ 一時使用建物
 - ⊕ 倉庫
- 建物以外の工作物
- ⊙ 運動場
 - ⊖ 屋外
 - ⊖ ベンチ
 - ⊖ 植込み
 - ⊖ 吹き抜けの読書下
 - ⊖ 門
 - ⊖ 自転車置き場
 - ⊖ プール附属室

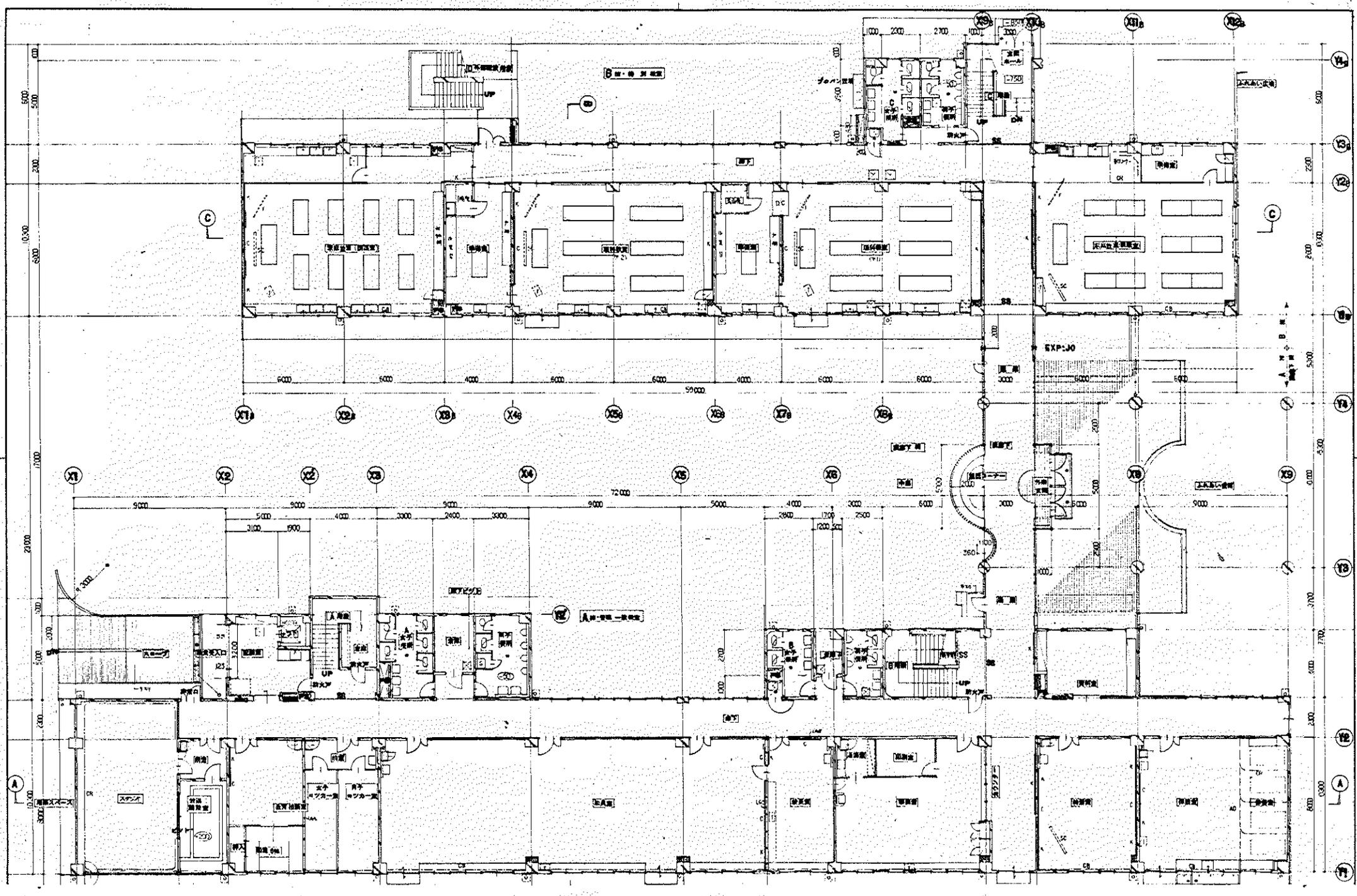


建物敷地
合計 11,957㎡

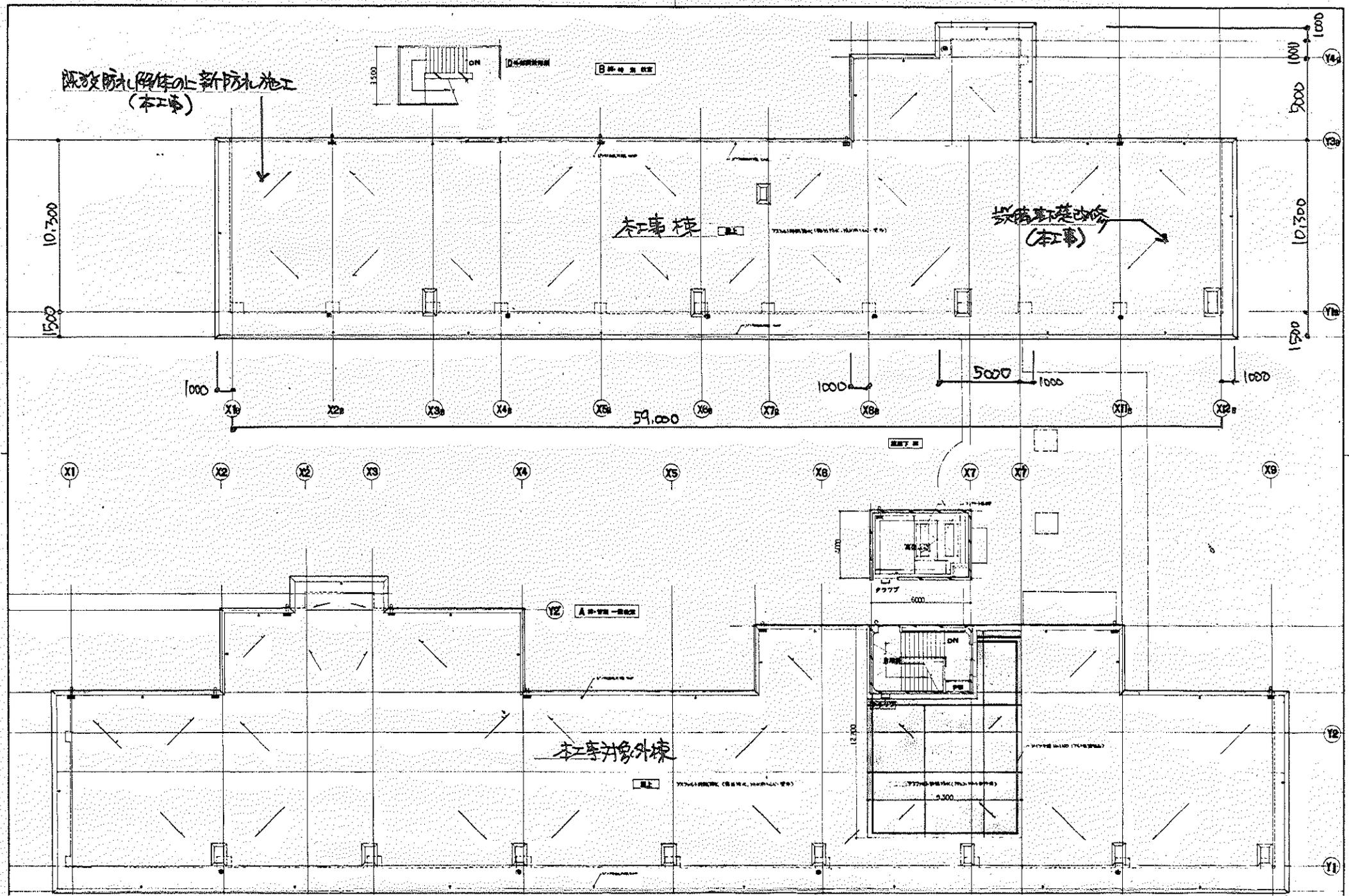
運動場用地
合計 20,040㎡

その他保有
合計 1,027㎡





H29国府中学校 特別教室棟 防水改修工事
1階平面図 1/200 A-2



平面寸法は1階平面図参照

西側は防水改修がみられる

19.470 2500

R.H.L. 3700

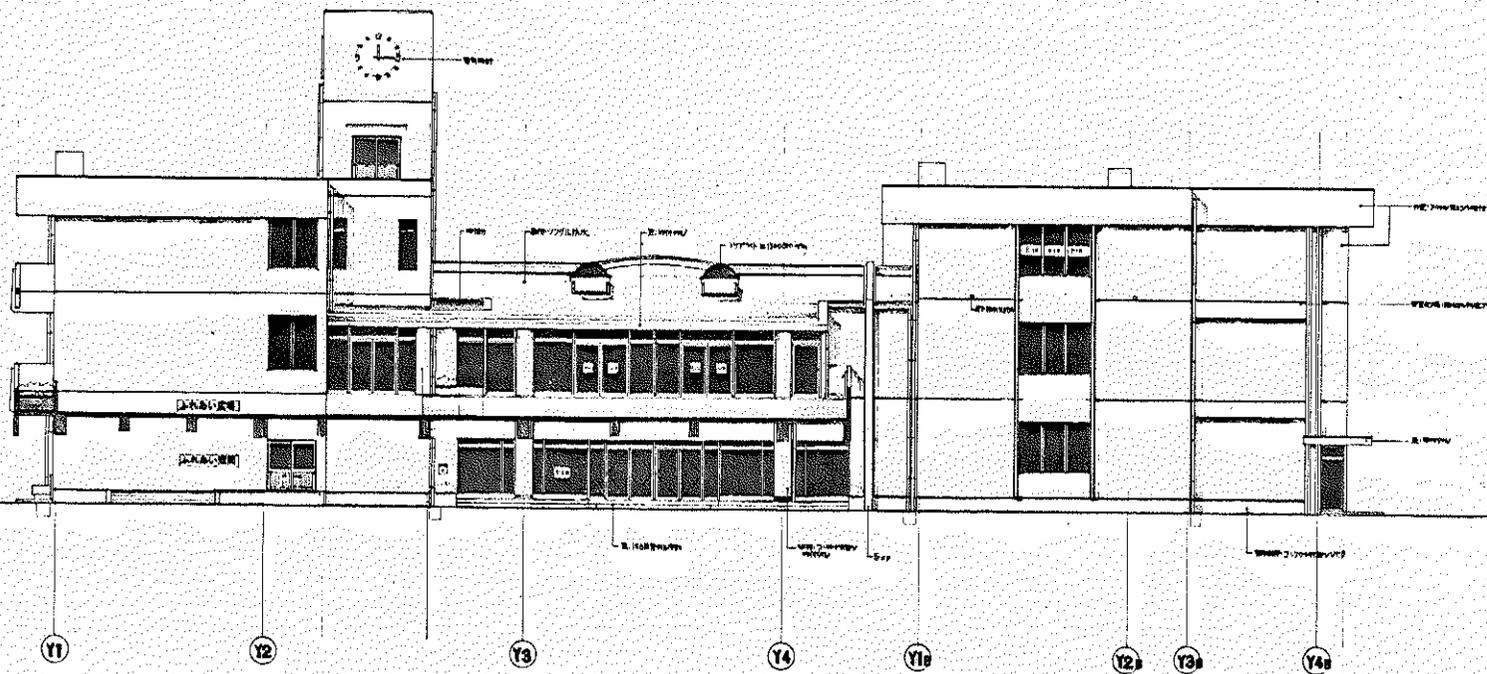
R.H.L. 3900

R.H.L. 3800

R.H.L. 3600

R.H.L. 500

R.L. 0



Y1

Y2

Y3

Y4

Y10

Y12

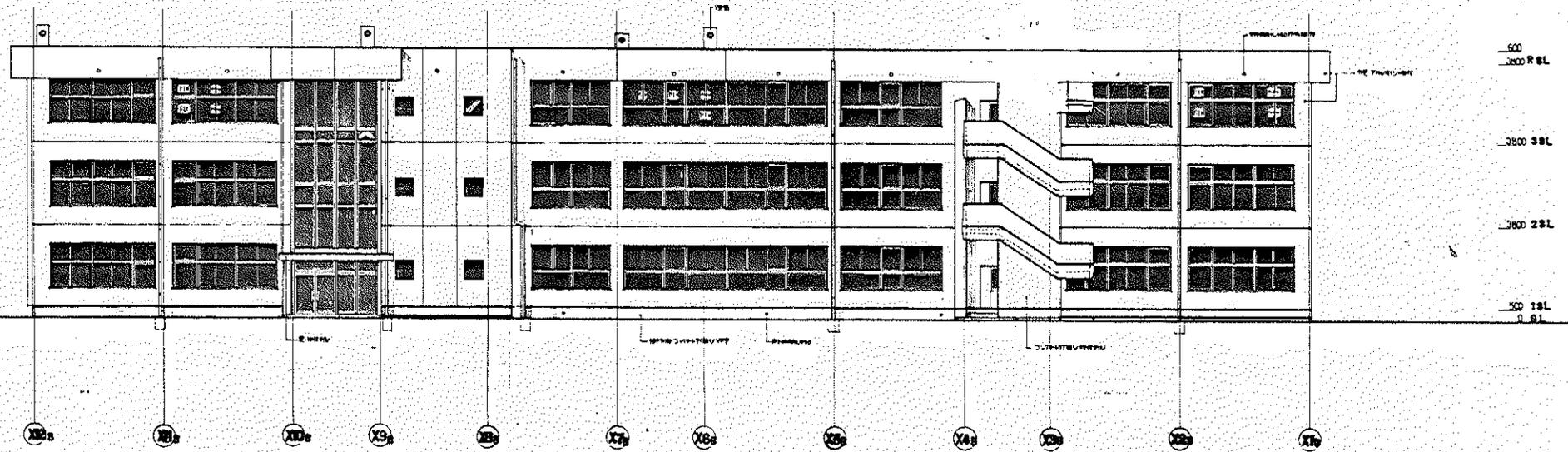
Y13

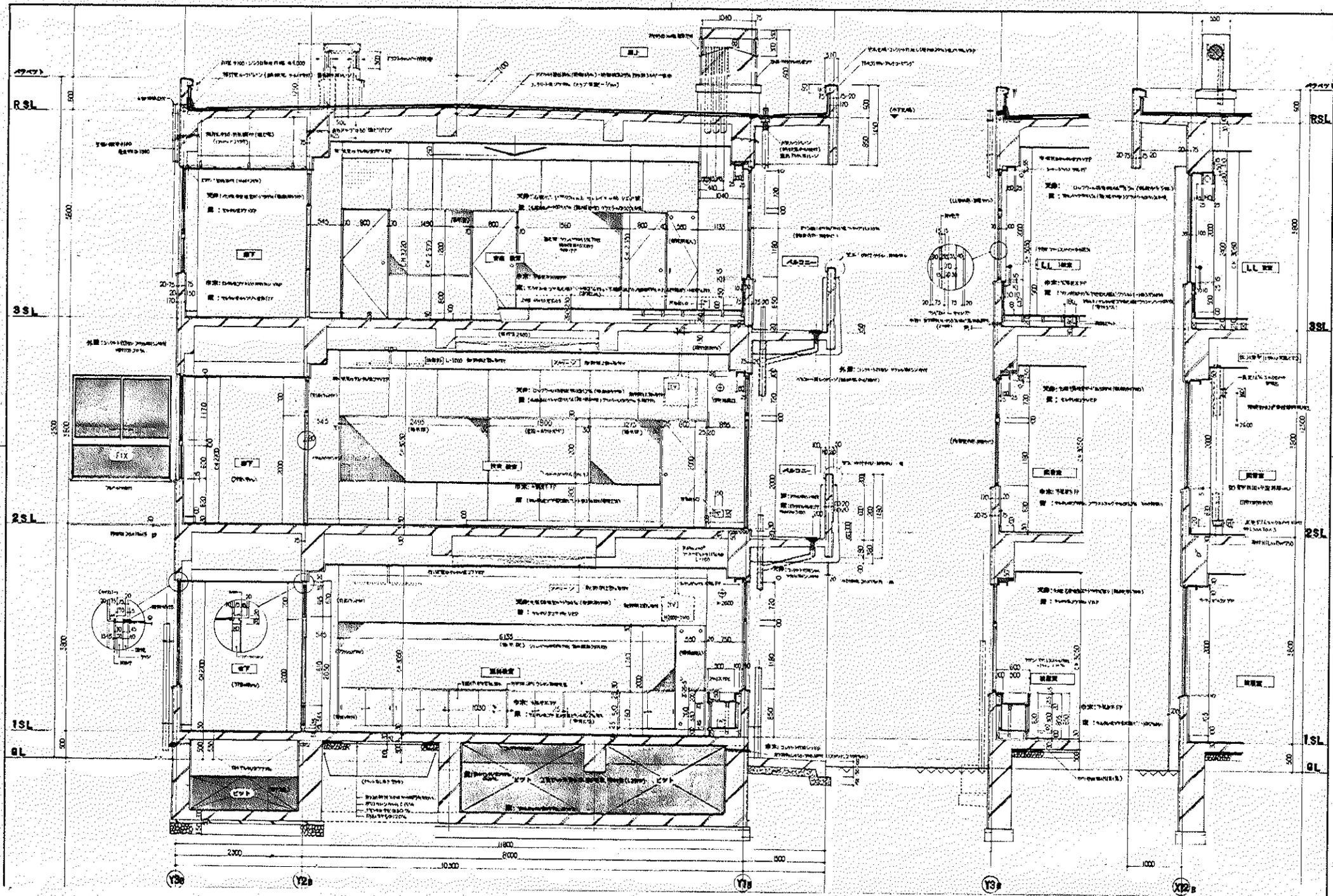
Y14

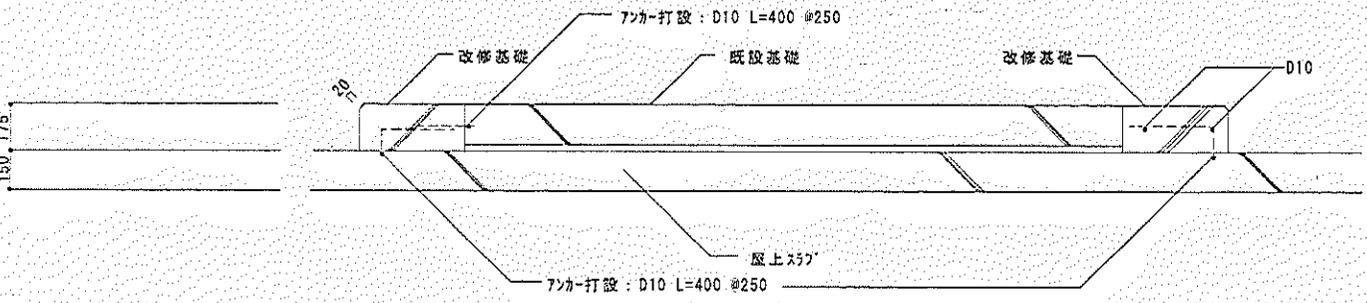
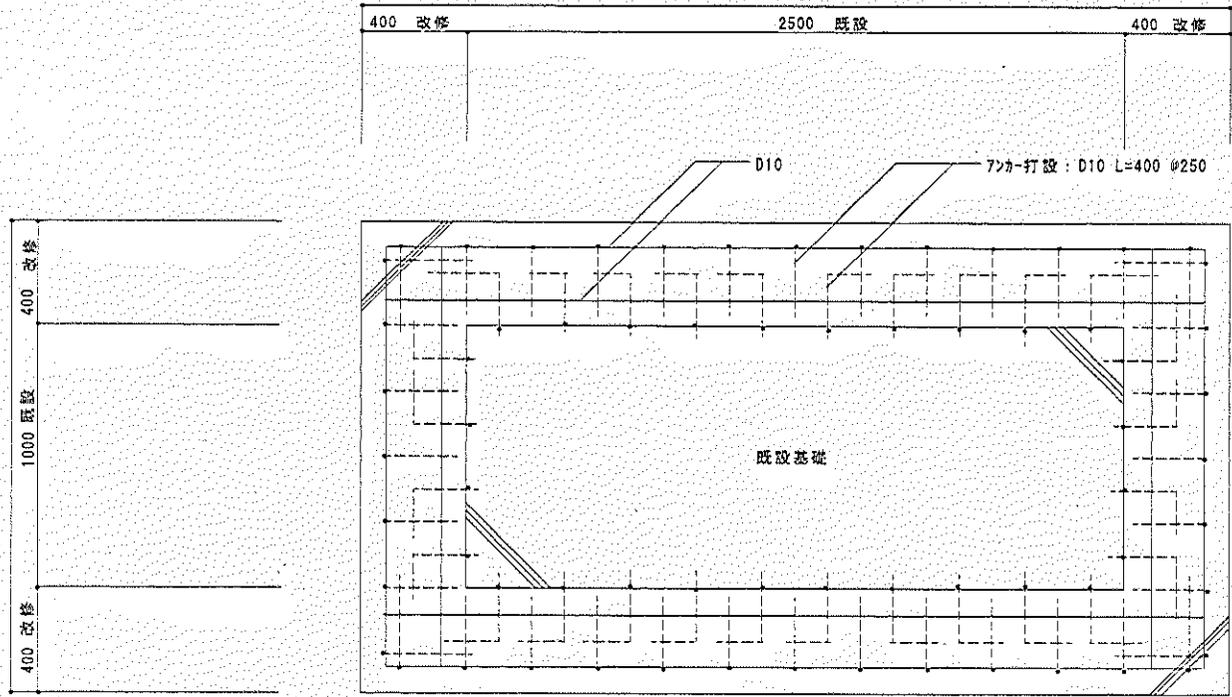
A

B

柱間棟







既設基礎の4周をコンクリートで補強